

地域コミュニティ活動に関するアンケート(結果)

〈昭島市市民部生活コミュニティ課実施〉

I 調査実施の概要

1. 調査目的

昭島市地域コミュニティ活動連携推進計画の策定にあたり、地域活動に対する意識や地域団体の活動状況を把握し、基礎資料とするため調査分析を実施。

2. 調査対象

一般市民、自治会、市民活動団体、市内各施設利用者

3. 調査期間

令和5年12月～令和6年1月

4. 調査方法

市内公共施設窓口に調査票を設置

自治会へ調査票送付

市民活動支援事業補助金交付団体などの市民団体へ調査票送付

昭島市ホームページ、X（旧：Twitter）、LINEへ掲載

市役所来庁者に直接声掛け

5. 調査項目

自治会について

地域の団体活動（自治会以外）について

地域コミュニティ活動について

6. 回答者の属性

（1）性別

	回答数（人）	割合（%）
全体	647	100.0
男性	336	52.0
女性	307	47.4
上記以外	4	0.6

(2) 年齢

	回答数(人)	割合(%)
全体	647	100.0
20代以下	59	9.1
30代	103	15.9
40代	102	15.8
50代	120	18.5
60代	123	19.0
70代以上	135	20.9
無回答	5	0.8

(3) 職業

	回答数(人)	割合(%)
全体	647	100.0
会社員・公務員・団体職員	309	47.8
派遣社員・契約社員・嘱託社員	35	5.4
パート・アルバイト・内職	81	12.5
自営業及びその家族従業員	34	5.3
専業主婦・主夫	65	10
学生	2	0.3
年金生活者	65	10
無職	42	6.5
その他	11	1.7
無回答	3	0.5

(4) 家族構成

	回答数(人)	割合(%)
全体	647	100.0
単身世帯	110	17
一世代世帯(夫婦だけ)	188	29.1
二世代世帯(親と子ども)	295	45.6
三世代世帯(親、子ども夫婦、孫)	28	4.3
その他	24	3.7
無回答	2	0.3

II 調査結果まとめ

1. 自治会について

- ・自治会の加入率は、年齢が下がるにつれ減少。
- ・自治会の加入理由、強化してほしい活動の共通点は「災害やいざというときの助け合い」「防災」。
- ・自治会加入者にとって、役員になることが負担（59%）。自治会未加入者が自治会に加入しない理由においても、「役員になりたくない」は24%。
- ・自治会に加入しない理由は、「加入する必要性を感じない」（43%）、「時間的な余裕がない」（28%）、「役員になりたくない」（24%）。

自治会加入者：自治会活動の活発化に必要なこと

（自由記述回答のうち記載の多いもの、キーワードとなるものを抜粋）

- ・役員の負担を減らす運営や活動の見直し
DX^注の活用
活動のスリム化
行政からの依頼の見直し
特定の人だけに負担がかからない工夫 など
- ・時代に合わせた活動、運営体制の見直し
共働き世帯の増加、定年延長など、地域に関わる時間的余裕が持ちにくい時代に合わせた工夫
- ・気軽に参加しやすい仕組みづくり
新しい人や若い世代も参加しやすい、意見が受け入れられやすい柔軟性のある組織運営
- ・若い世代が魅力を感じるような取組、若い世代の参加を促進
- ・みんなで一緒に「楽しめる」活動
- ・活動の見える化
活動内容の周知
楽しく活動している姿を見せる
自治会のメリットや役割・大切さを伝える
防災活動を中心としたPR など

注 DX（デジタル トランスフォーメーション）：コンピュータやそのネットワークの活用により社会のデジタル化を一層推進させ、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

2. 地域の団体活動(自治会以外)について

- ・地域の団体活動への参加率も、年齢が下がるにつれ減少。
- ・地域の団体活動への参加理由は、「地域や仲間とつながってみたいから」(53%)、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(38%)、「趣味の一環として」(34%)。
- ・地域の団体活動へ参加しない理由は、「時間がない」(39%)、「自分の生活で精いっぱい」(29%)、「活動内容がわからない」(24%)。

3. 地域コミュニティ活動について

- ・地域で活動する団体への期待は、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」(30%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(30%)。
- ・地域コミュニティ活動の推進に必要なことは、「日々の挨拶や声掛け」(42%)、「住民同士の地域情報の共有」(31%)。
- 「日々の挨拶や声掛け」は全年齢で一番多い回答だが、2番目は、20代以下「新しいイベントづくり」、30代「伝統行事・祭りへの参加促進」。
- ・目指すべき地域は、「治安が良く安心して暮らせる地域」(68%)、「地震や風水害などの災害に強い地域」(28%)。
- ・地域が災害時の対応などの課題解決力を高めていくために必要なことは、「日頃からの地域住民同士の関係づくり」(46%)、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」(36%)。

地域で活動する団体へ具体的にどのようなことを期待しているか

(自由記述回答のうち記載の多いもの、キーワードとなるものを抜粋)

- ・地域の交流、人のつながり、出会いのきっかけになるイベントの開催
子どもや若い世代も参加できるイベント
多世代が交流できるイベント
- ・交流の場、居場所、つどえる場づくり
子どもや若い世代など多世代が参加できる場
誰でも歩いて行ける範囲での居場所
- ・地域の見守り、助け合い、困りごとへの対応
行政では対応することが難しいきめ細かな部分への対応
- ・顔の見える関係づくりを通した防犯力・防災力を高める取組
- ・柔軟でゆるいつながり、ほどよい関係づくり
若い世代や新しい人などこれまでなかった考え方を受け入れる柔軟性

4. 地域コミュニティ活動へのニーズ

(自由記述回答のうち記載の多いもの、キーワードとなるものを抜粋)

- **参加しやすさ**

時間がとりにくい世代も参加しやすい工夫

新しい人も参加しやすい雰囲気

参加してみたいと思う人が気軽に参加できる、肩の力を抜いた感覚で活動できる仕組み

- **DXの推進、スマートフォンの活用**

時間にとらわれず活動できる環境

欠席者も情報を共有できるシステム

- **活動やイベントの情報集約、情報発信**

ホームページやSNS^注の活用による地域の見える化

- **幅広い団体と気軽に情報交換できる場**

- **価値観の多様化が進む中での時代に合わせたつながり**

人とゆるい関係が保てるつながり

地域性が尊重されるつながり

- **個人の能力を発揮できる仕組み**

- **若い世代が参加できる仕組み、若い世代が中心に活動するコミュニティ**

社会人や子育て世代が参加したい、参加できる活動

- **子どもを絡めた活動**

- **外国籍住民も参加しやすい地域コミュニティ**

- **住民だけでなく、地域と関わる人に着目した取組**

地域を巣立っていった人とのつながりを続ける取組

地域を応援してくれる仲間をつくる取組

- **自然災害への防災活動を核とした地域コミュニティ**

- **「わくわく」すること、「楽しい」ことに視点を置いた取組**

- **リーダー育成、人財発掘**

- **活動場所の確保**

注 SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）：X やインスタグラム、ラインなど、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのこと。

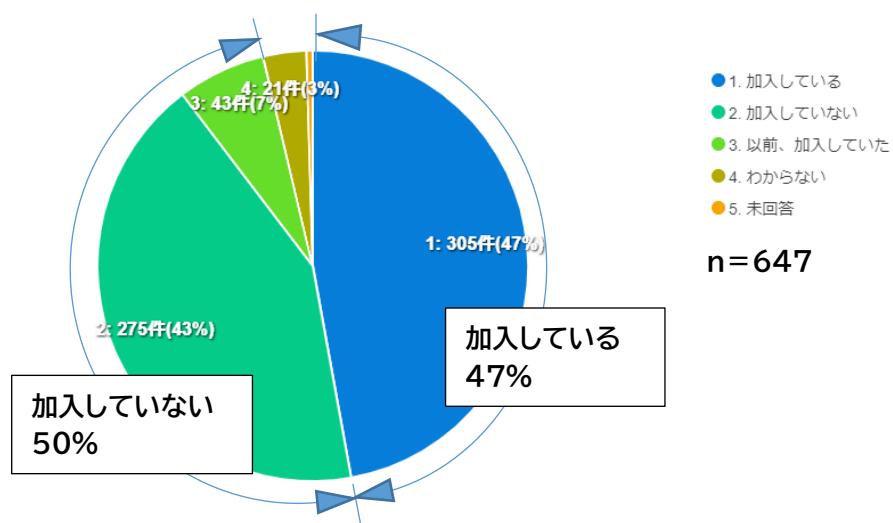
III 調査結果

1. 自治会について

(1) 自治会加入の有無

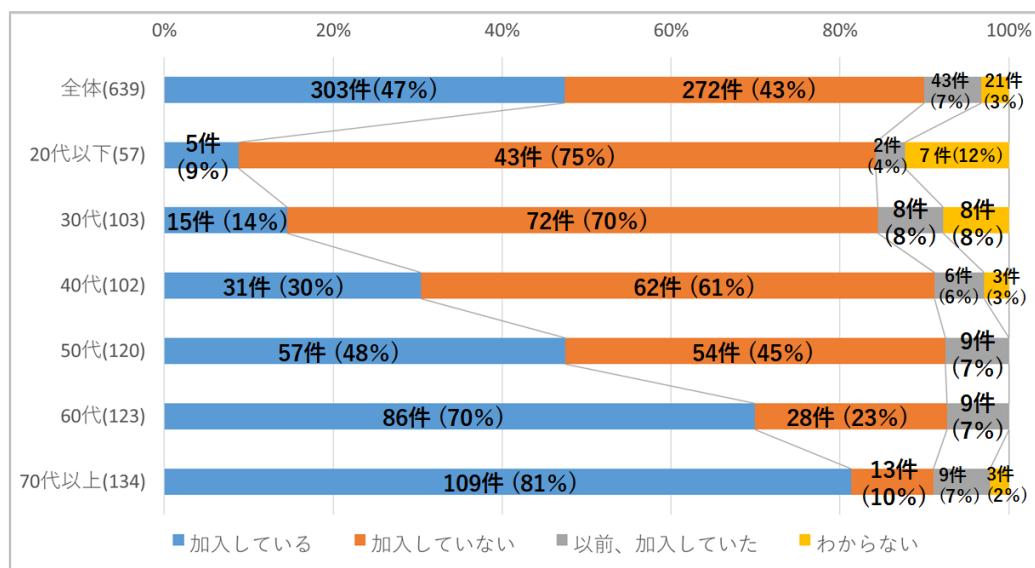
「あなたは自治会に加入していますか」(1つだけ)

「加入している」305 件 (47%) となっており、「加入していない」275 件 (43%)、「以前、加入していた」43 件 (7%) で合わせて 50% となっている。昭島市の自治会加入率は 30.8% (令和5年度) であるため、本調査は、市内の現状より自治会加入者率が高い調査回答となっている。



【年代別】(年齢未回答及び未回答者を除く)

年代別でみると、自治会の加入率は、年齢が下がるにつれ減少している。

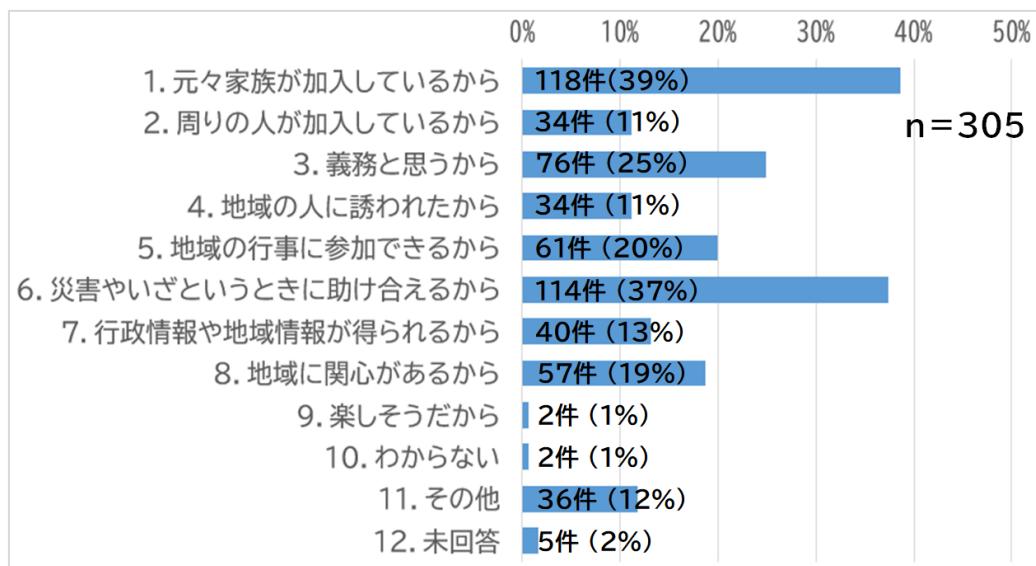


以下(2)・(3)は、自治会に加入している方のみ回答

(2)自治会に加入している人に聞いた、加入した理由

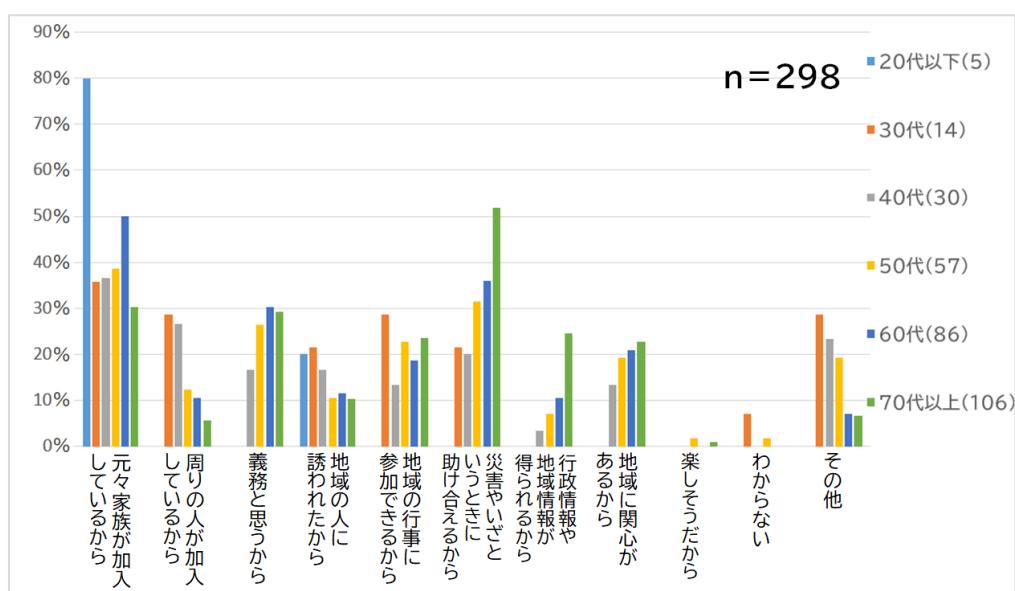
「自治会に加入した理由は何ですか」(3つまで)

「元々家族が加入しているから」118件(39%)に次いで、「災害やいざというときに助け合えるから」114件(37%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

上記2項目以外について年代別でみると、年齢が低いほど、「周りの人が加入しているから」「地域の人に誘われたから」の割合が高い。年齢が高いほど、「義務と思うから」「行政情報や地域情報が得られるから」「地域に関心があるから」の割合が高い。



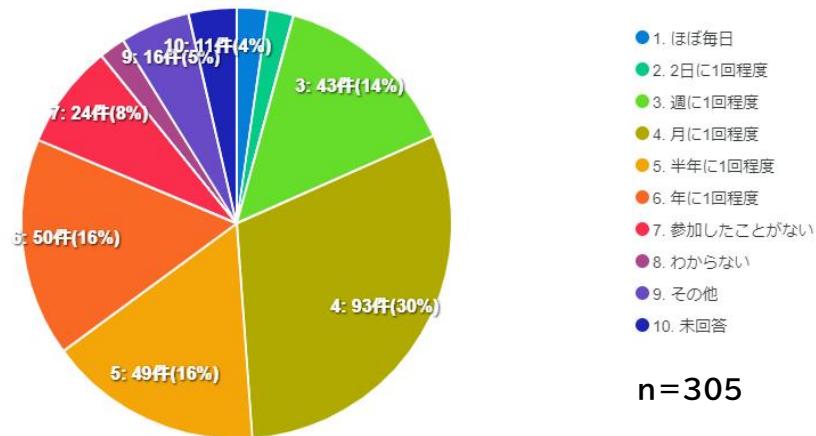
【その他意見】一部抜粋

- ・マンションや団地に住むことで、自治会へも加入となる、入居条件（多数回答あり）。
- ・子ども会に入るため。
- ・お付き合い。
- ・地域の人とつながる場。

(3)自治会に加入している人に聞いた、自治会活動の頻度

「自治会の活動にはどのくらいの頻度で参加していますか」(1つだけ)

「月に1回程度」93件(30%)、「年に1回程度」50件(16%)、「半年に1回程度」49件(16%)、「週に1回程度」43件(14%)の順で回答が多い。「参加したことがない」が24件(8%)ある。

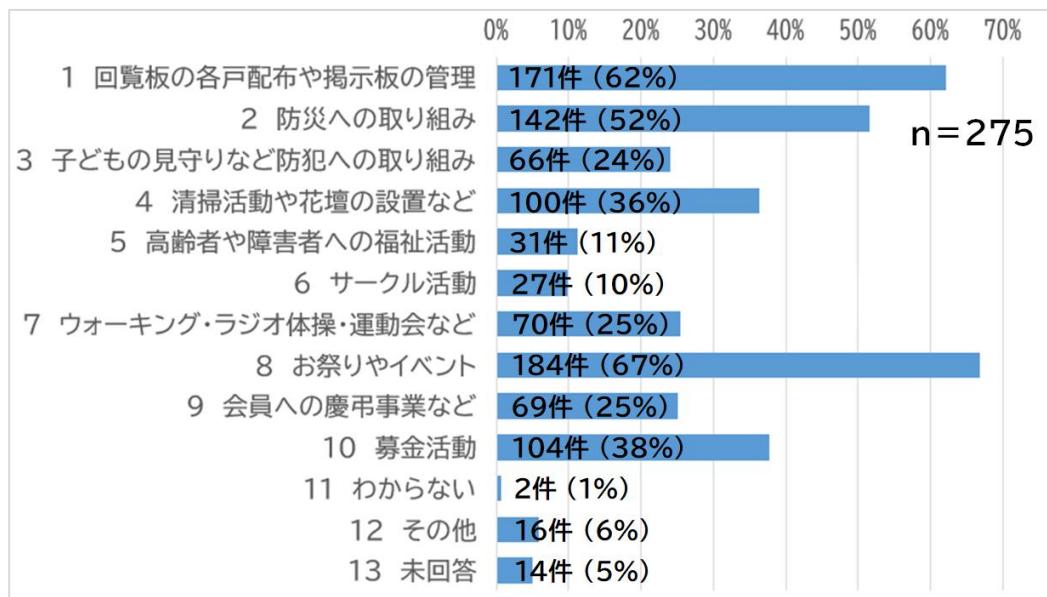


以下(4)は、(3)で「7 参加したことがない」「8 わからない」と回答した方を除き回答

(4) 参加している自治会活動

「自治会のどのような活動に参加していますか」(いくつでも)

「お祭りやイベント」184 件 (67%)、「回覧板の各戸配布や掲示板の管理」171 件 (62%)、「防災への取り組み」142 件 (52%)、「募金活動」104 件 (38%)、「清掃活動や花壇の設置など」100 件 (36%) の順で回答が多い。



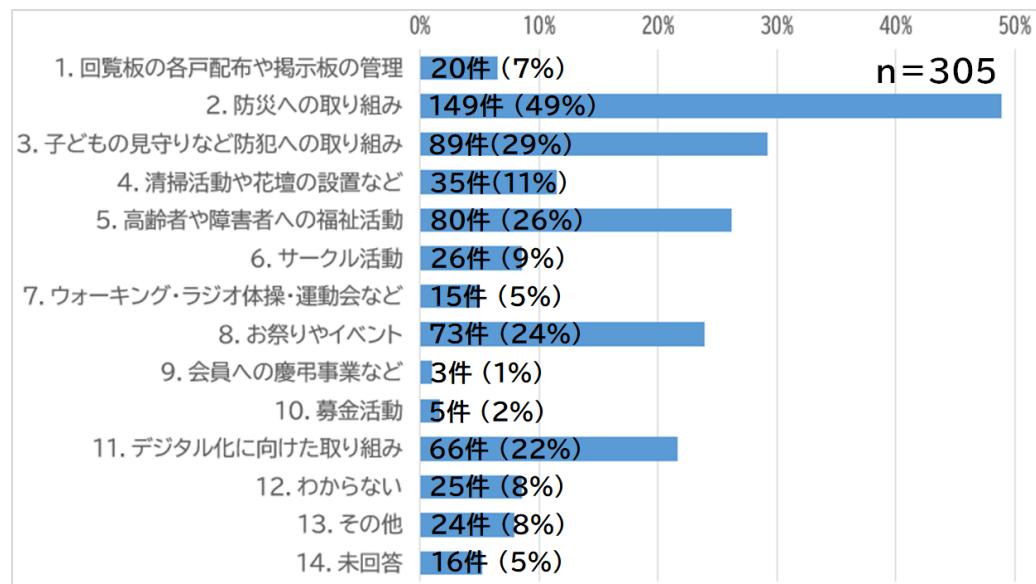
以下(5)～(7)は、自治会に加入している方のみ回答

(5) 自治会に加入している人に聞いた、自治会に強化してほしい活動

「自治会に強化してほしい活動は何かですか」(3つまで)

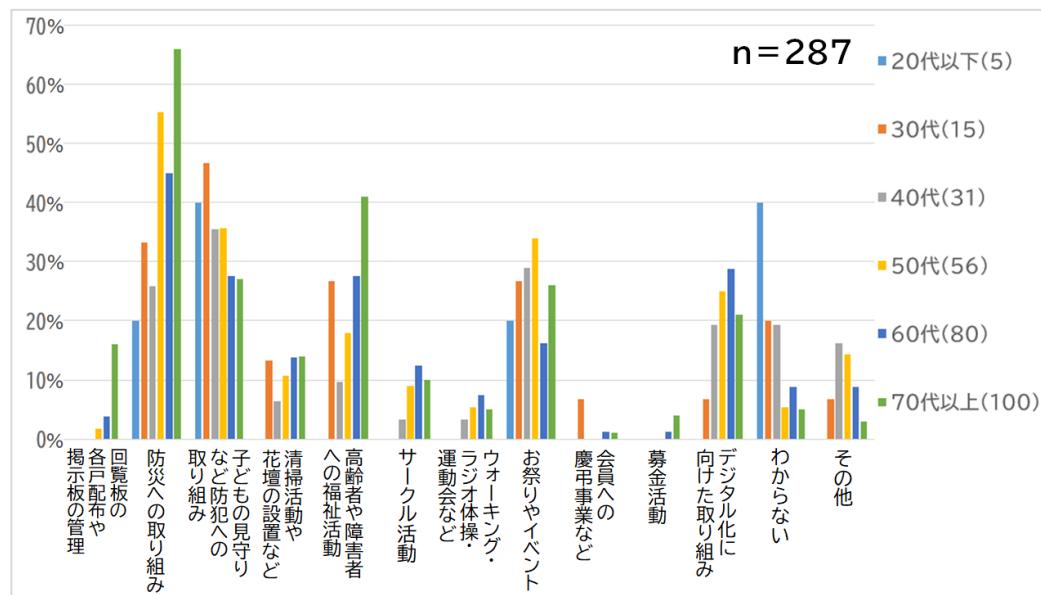
「防災への取り組み」149件(49%)が目立って回答が多い。次いで、「子どもの見守りなど防犯への取り組み」89件(29%)、「高齢者や障害者への福祉活動」80件(26%)、「お祭りやイベント」73件(24%)、「デジタル化に向けた取り組み」66件(22%)の順で回答が多い。

「(4) 参加している自治会活動」で回答の多い「回覧板の各戸配布や掲示板の管理」は20件(7%)、「募金活動」は5件(2%)と回答が少ない。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

「防災への取り組み」と「子どもの見守りなど防犯への取り組み」は、すべての年代で回答が多いが、40代以下では「子どもの見守りなど防犯への取り組み」の方が回答は多く、50代以上では「防災への取り組み」の方が回答が多い。



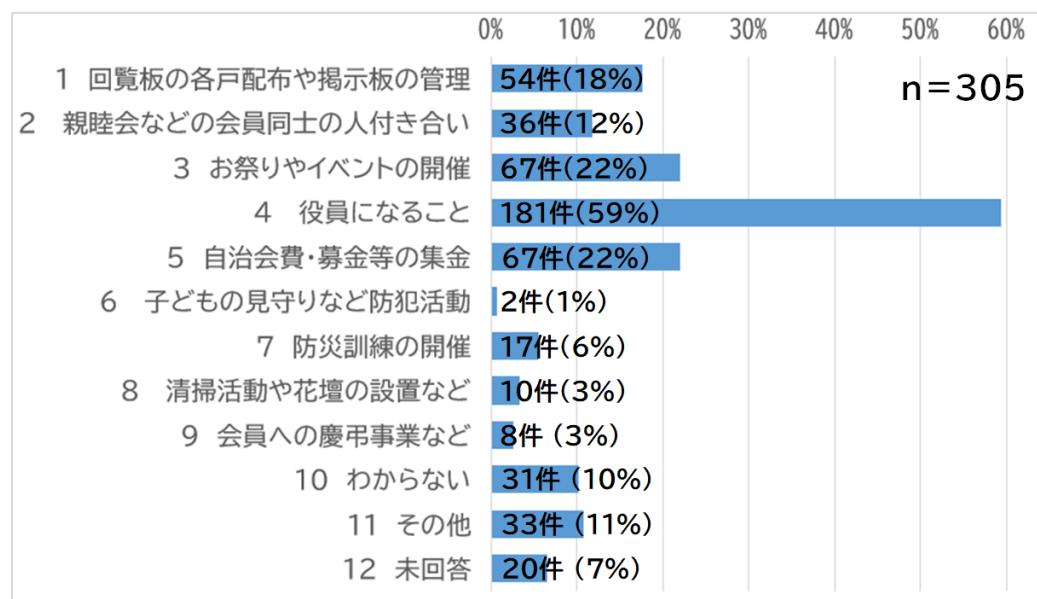
【その他意見】一部抜粋

- ・今まで良い。
- ・現状維持で精一杯だと思う。
- ・負担は求められない。
- ・当番役員の役割軽減。
- ・自治会の活動を厳選して、自治会役員の責務を軽減すること。
- ・自治会への勧誘（しかし、自治会入会のメリットを示さないと会員は増えない）。
- 今現在加入している人の居心地が良い環境及び、新規に加入したいと思えるような活動の模索。
- ・若い世代の取り込み（活動の中身が見えてこない、参加しにくい、既存の高齢者会員のみで盛り上がっている感じが否めない）。
- ・災害があった場合、加入者と非加入者とが完全に自治会員側が優位になる差別化。
- ・自治会館でWi-Fiが使える環境を整えてほしい。
- ・高齢者がスマホやパソコンを使える指導をしてほしい。
- ・外国人のごみ集積所の使い方についての説明。
- ・地域課題を捉えた警察などの関係機関への要請。
- ・自治会休止中の周辺地区への対応などによる自治会存続への協力。

(6)自治会に加入している人に聞いた、自治会活動の負担

「自治会の活動で負担に感じていることは何ですか」(3つまで)

「役員になること」が181件(59%)で、目立って回答が多い。次いで、「お祭りやイベントの開催」、「自治会費・募金等の集金」がそれぞれ67件(22%)、「回覧板の各戸配布や掲示板の管理」が54件(18%)の順で回答が多い。



【その他意見】一部抜粋

- ・負担に感じることはない(自主的に楽しく参加している、近所の方と顔見知りになることはいいことだと思うので)。
- ・やれる事は全て行う。
- ・役員決め、会長になる人がいない。
- ・会合への出席、在宅でのネット会議は推進できないか。
- ・何でも義務的に行おうとするところ。
- ・昔のしきたりを頑なに守ろうとするご年配の方々とのやりとり。
- ・掲示板への掲示物が多い事と、サイズが不揃いで貼りづらい。期間が長い物がある。掲示板が小さい。
- ・各種団体、自治会連合会、市役所等への応援参加が多すぎる。
- ・会費の支払い以外の、時間が取られる活動等。
- ・今期の自治会長を務めているが負担が大きい。
- ・会員勧誘。

(7)自治会に加入している人に聞いた、自治会活動が活発化に必要なこと

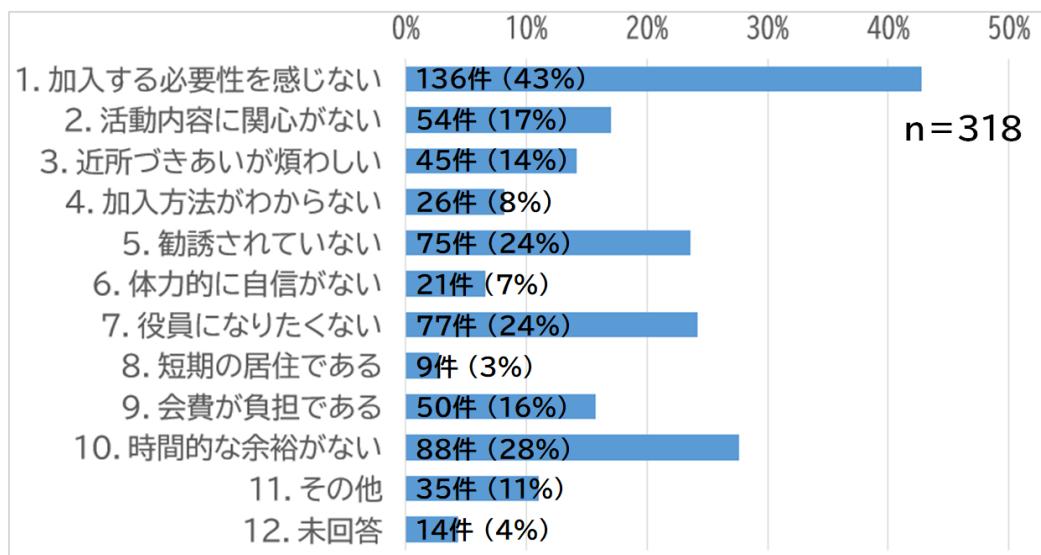
自由記述の回答項目のため、最後にまとめて記載しています。(33ページ)

以下(8)・(9)は、自治会に加入していない方のみ回答

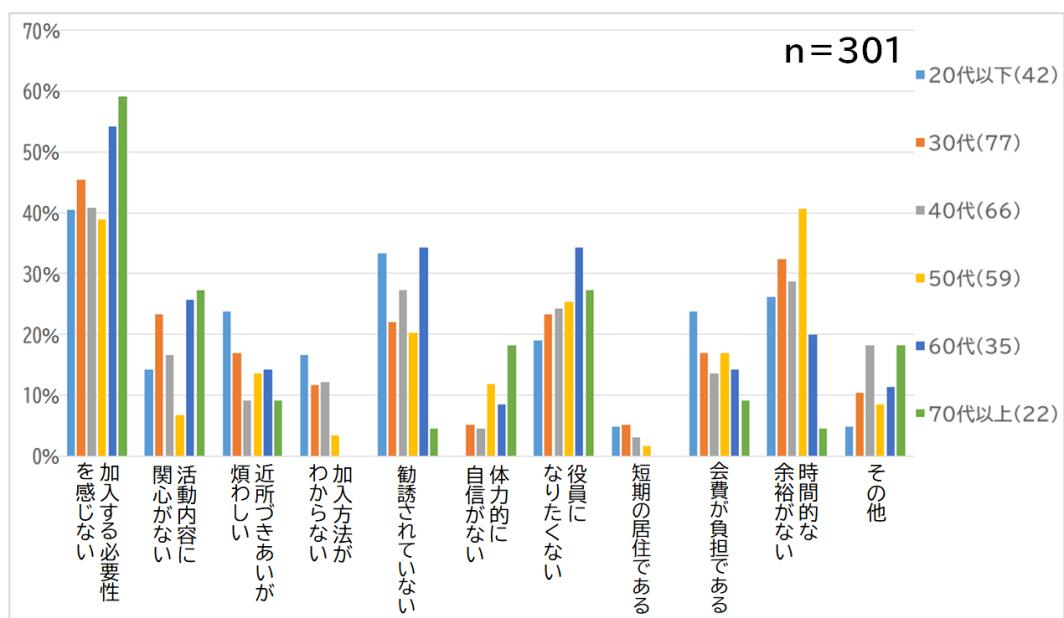
(8)自治会に加入していない方に聞いた、自治会に加入しない理由

「あなたが、自治会に加入しない理由は何ですか」(3つまで)

「加入する必要性を感じない」136件(43%)、「時間的な余裕がない」88件(28%)、「役員になりたくない」77件(24%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)



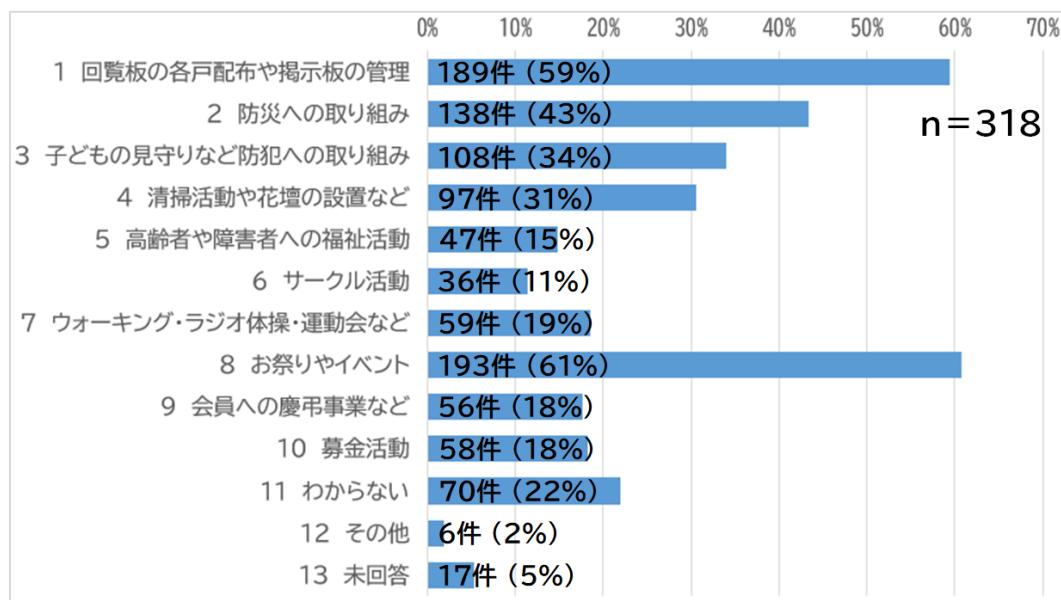
【その他意見】一部抜粋

- ・近所の話合いで決めたので、それに従った。
- ・自治会のない地域に居住しているため。
- ・加入しなくても近所づきあいがあるから。
- ・活動内容のやり方に無駄が多い。効率的ではない。
- ・加入継続を望むも、男尊女卑を感じたり、年配者が若輩者の意見に理解がない。
- ・決まった方が何年も役員をされていて、ありがたい反面、新しい人（子供を含む）を受け入れるような柔軟性や気持ちが感じられなかった。あと年に3回ほど回ってくる募金活動も正直負担でした。
- ・市外から転入してきたが、外様の意見など全く聞いてもらえない。下部のように動かされた。

(9)自治会に加入していない方に聞いた、自治会活動イメージ

「あなたは、自治会がどのような活動を行っているか知っていますか」(3つまで)

「お祭りやイベント」193件(61%)、「回覧板の各戸配布や掲示板の管理」189件(59%)で、5割を超える回答。次いで、「防災への取り組み」138件(43%)、「子どもの見守りなど防犯への取り組み」108件(34%)、「清掃活動や花壇の設置など」97件(31%)の順で回答が多い。

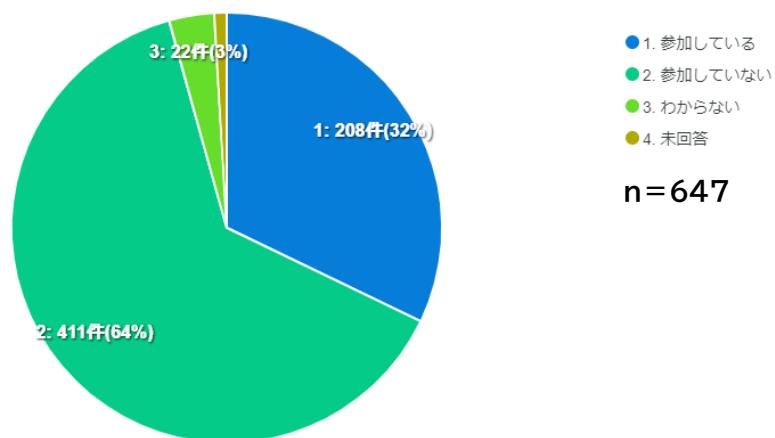


2. 地域の団体活動(自治会以外)について

(1) 自治会以外の地域の団体活動への参加の有無

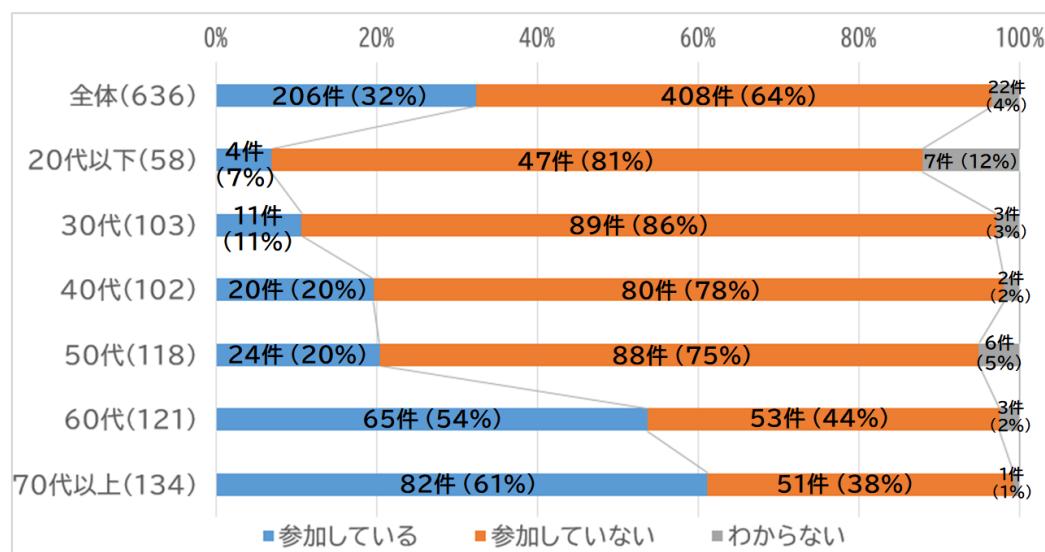
「あなたは、自治会以外で地域の団体活動に参加していますか」(1つだけ)

「参加している」208件(32%)、「参加していない」411件(64%)となっている。



【年代別】(年齢未回答及び未回答者を除く)

年代別でみると、自治会の加入率と同じく、地域の団体活動への参加率も、年齢が下がるにつれ減少している。

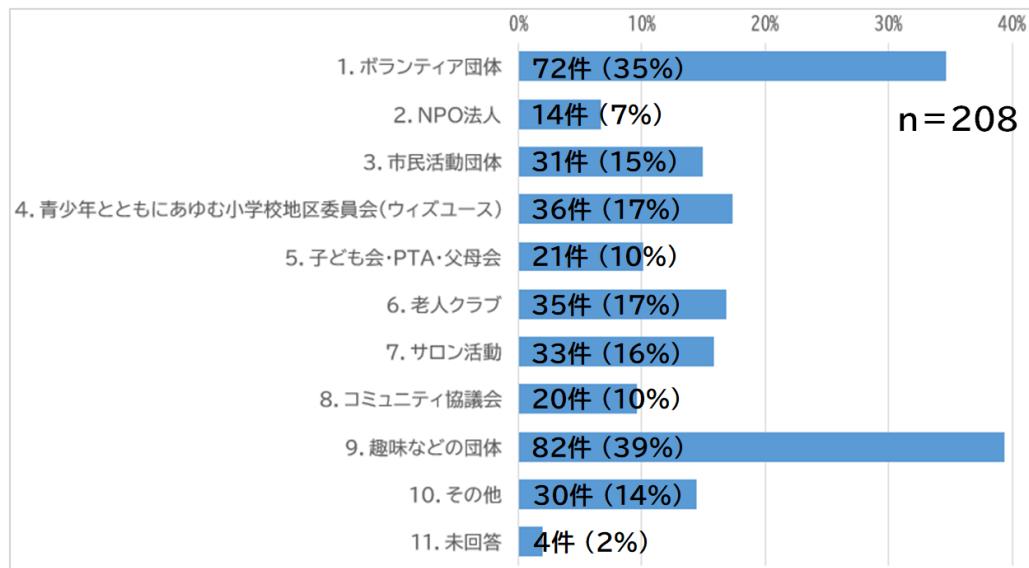


以下(2)～(7)は、自治会以外の地域の団体活動に参加している方のみ回答

(2)自治会以外で参加している地域の団体

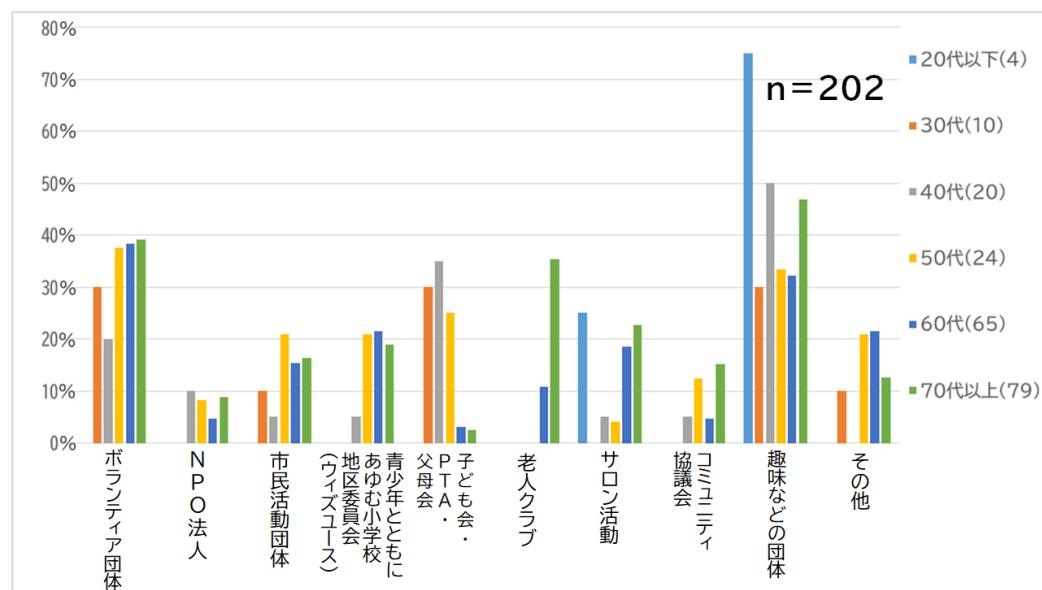
「参加している団体は何ですか」(いくつでも)

「趣味などの団体」82 件 (39%)、「ボランティア団体」72 件 (35%) の回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

上記2項目以外の項目について年代別でみると、30代～50代は「子ども会・PTA・父母会」、70代以上は「老人クラブ」と「サロン活動団体」の回答が多い。



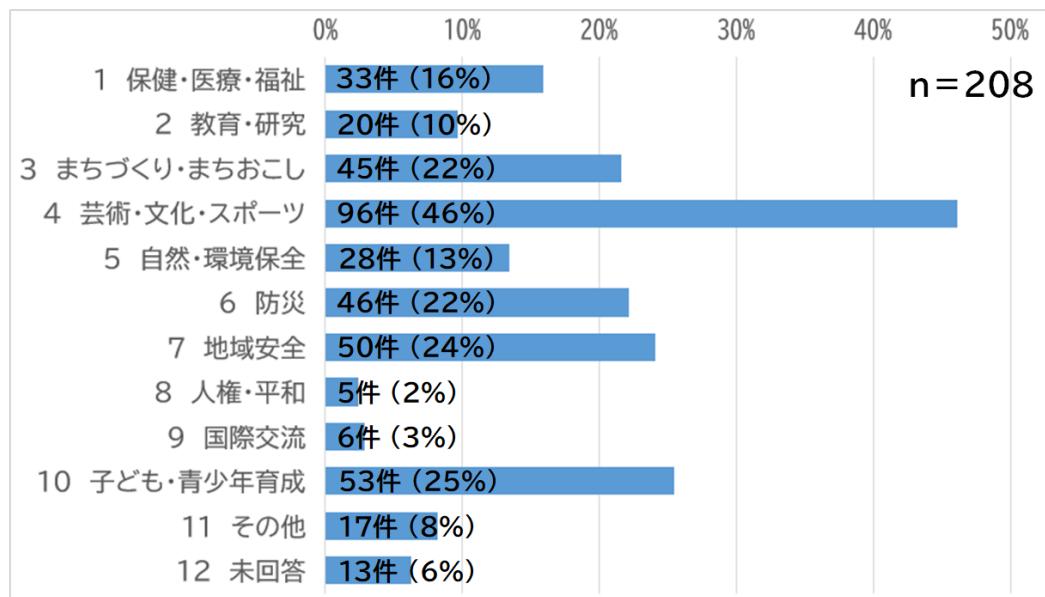
【その他意見】

- ・スポーツ団体
- ・神社・お寺（氏子会、神輿会、囃子連等）
- ・交通安全協会
- ・防犯協会
- ・消防団
- ・女性部
- ・シルバー人材センター

(3)自治会以外で参加している地域の団体の活動内容

「どのような活動を行っていますか」(いくつでも)

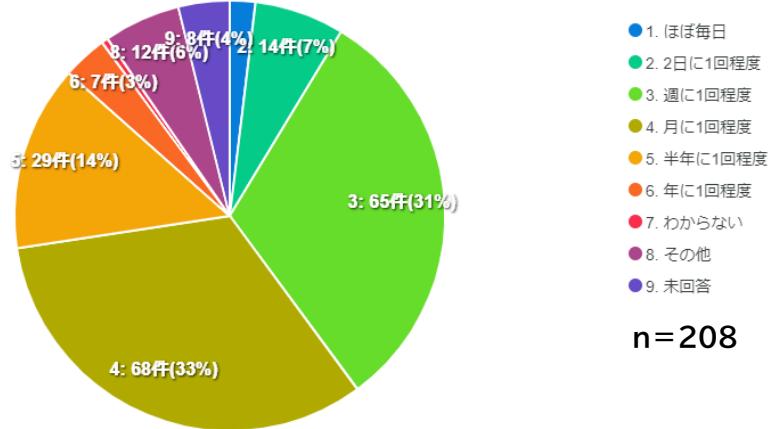
「芸術・文化・スポーツ」96 件 (46%) で、目立って回答が多い。次いで、「子ども・青少年育成」53 件 (25%)、「地域安全」50 件 (24%)、「防災」46 件 (22%)、「まちづくり・まちおこし」45 件 (22%) の順で回答が多い。



(4)自治会以外で参加している地域の団体の活動頻度

「その活動にはどのくらいの頻度で参加していますか」(1つだけ)

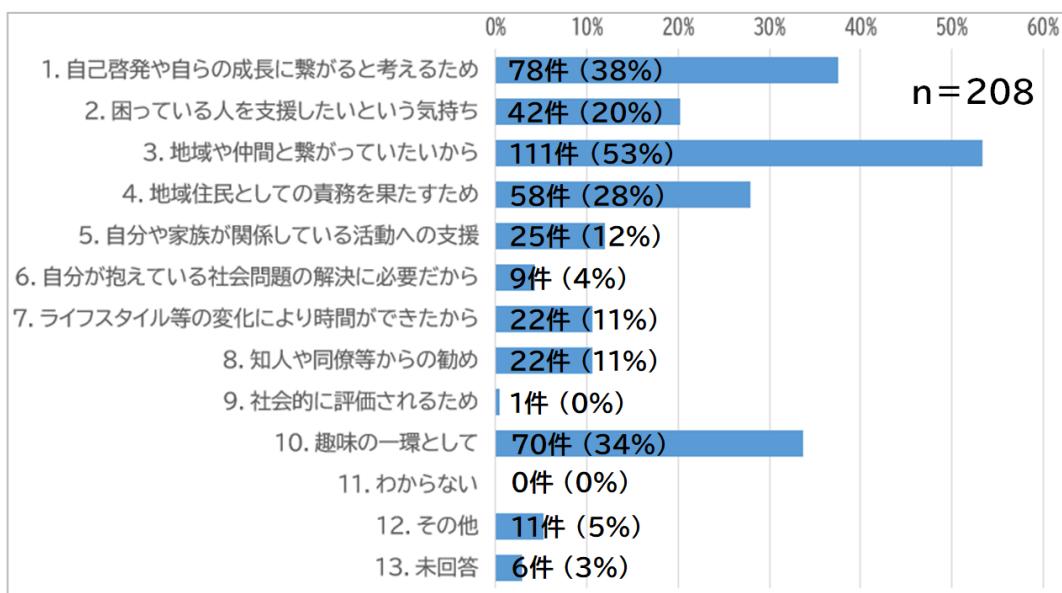
「月に1回程度」68件(33%)、「週に1回程度」65件(31%)、「半年に1回程度」29件(14%)の順で回答が多い。



(5)自治会以外で参加している地域の団体活動への参加理由

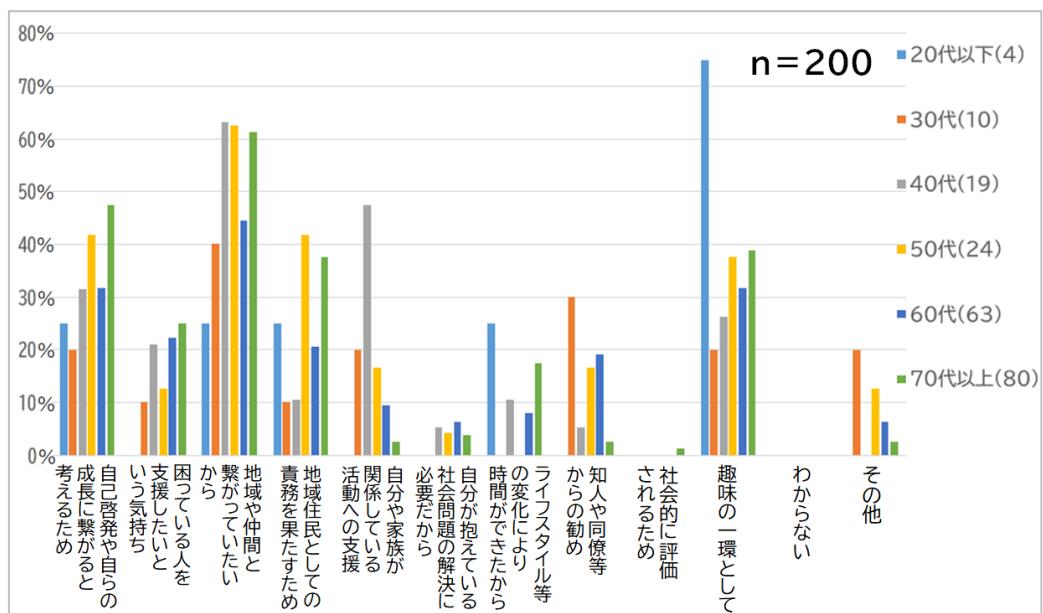
「地域の団体活動に参加する理由は何ですか」(3つまで)

「地域や仲間と繋がってみたいから」111件(53%)、「自己啓発や自らの成長に繋がると考えるため」78件(38%)、「趣味の一環として」70件(34%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

上記3項目以外の項目について年代別でみると、40代は「自分や家族が関係している活動への支援」、50代以上は「地域住民としての責務を果たすため」の回答が多い。

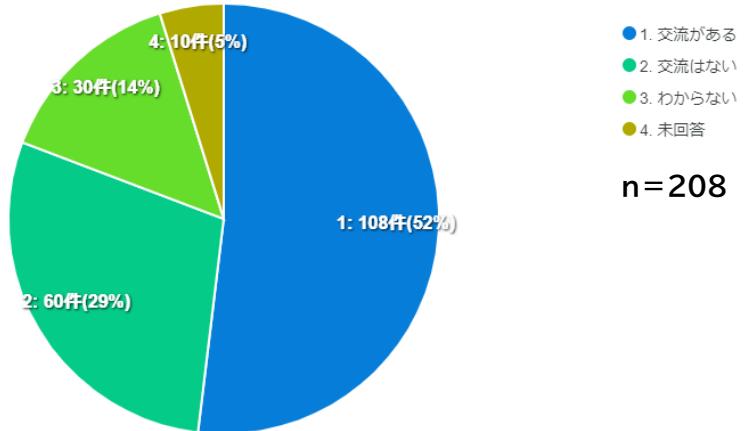


(6) 自治会以外で参加している地域の団体について、異なる団体(自治会含む)との交流の有無

「地域の団体活動で異なる活動を行う別の団体(自治会など)との交流はありますか」

(1つだけ)

「交流がある」108件(52%)、「交流はない」60件(29%)となっている。



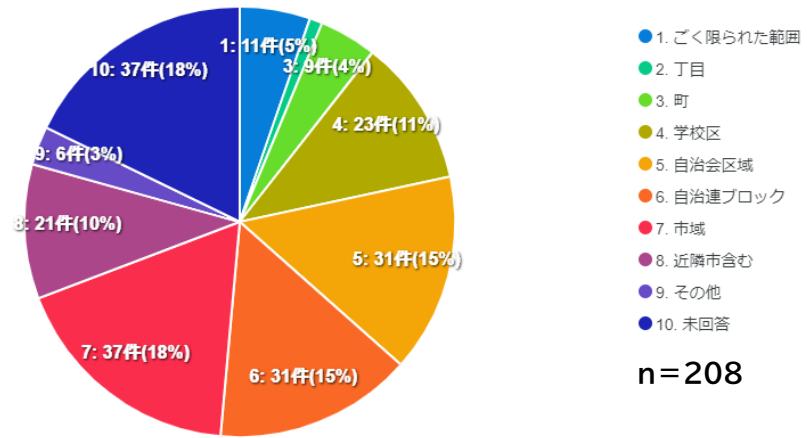
「どのような交流をしていますか」(自由記述)

- ・老人会や子ども会は自治会と密接に関わりがある。
- ・イベント・行事の協力、相互援助活動。
(例:バス旅行、ブロック別運動会、お祭り、祭礼、盆踊り大会、年末の夜回り)
- ・スポーツや趣味を通じての交流。
- ・認知症カフェのイベントとして参加していただいている。
- ・子供達と一緒にゴミ拾いしたり、PTA活動で地域の方と遊んでいます。
- ・学校区内のすべての団体を緩やかにつないでいる組織としての青少年とともにあゆむ小学校地区委員会での活動なので、イベントでの交流を頻繁に行っている。
- ・地元商店会としての交流。
- ・子供達の登校時見守り。
- ・防犯・防災活動。
- ・地域高齢者見守り。
- ・神社を媒体とした地域コミュニティ。
- ・郷土芸能まつり。
- ・ボラセンが用意する交流フェスタ。
- ・地域活動、社会奉仕などの世代間交流や補助金申請のためのコラボ。
- ・必要な時に連絡を取り合って情報交換したりしている。

(7)自治会以外で参加している地域の団体の活動範囲

「地域の団体活動の範囲はどの程度ですか」(1つだけ)

「市域」37件(18%)、「自治連ブロック」31件(15%)、「自治会区域」31件(15%)がほぼ同数で、次いで「学校区」23件(11%)、「近隣市含む」21件(10%)の順で回答が多い。

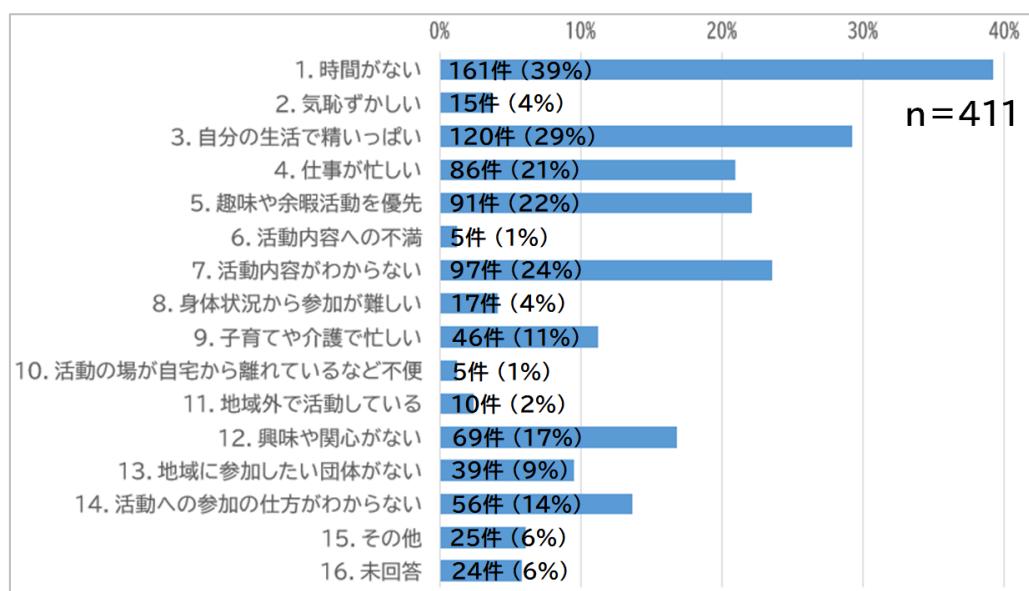


以下(8)は、自治会以外の地域の団体活動に参加していない方のみ回答

(8)自治会以外の地域の団体活動に参加していない理由

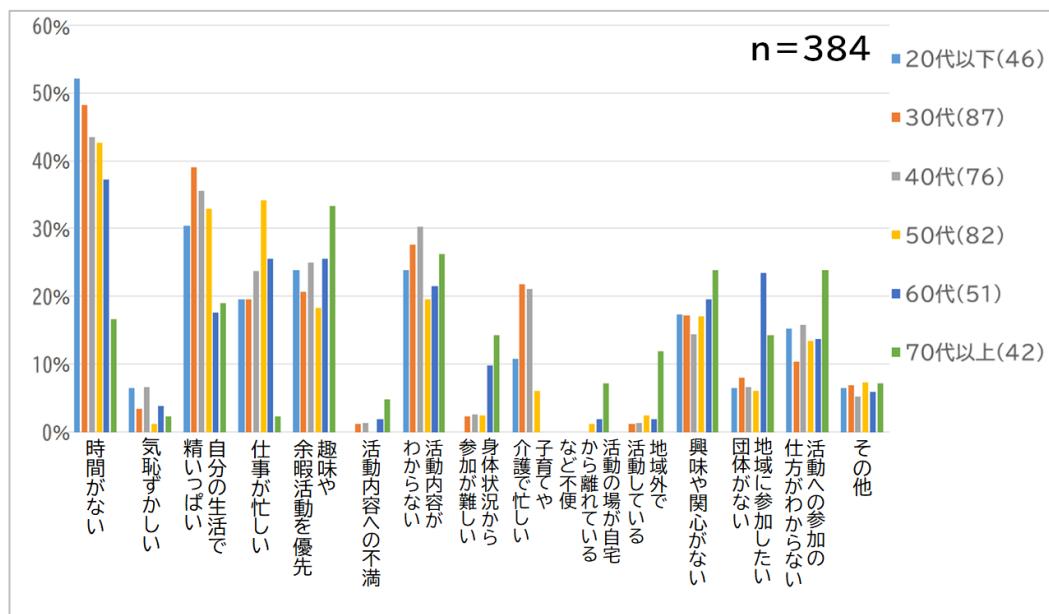
「地域の団体活動に参加していない理由は何ですか」(3つまで)

「時間がない」161件(39%)、「自分の生活で精いっぱい」120件(29%)、「活動内容がわからない」97件(24%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く) n=384

年代別に見ると、60代以下では「時間がない」(40%弱~50%)、「自分の生活で精いっぱい」(30%~40%弱)、「仕事が忙しい」(20%~35%弱)の回答が多い。

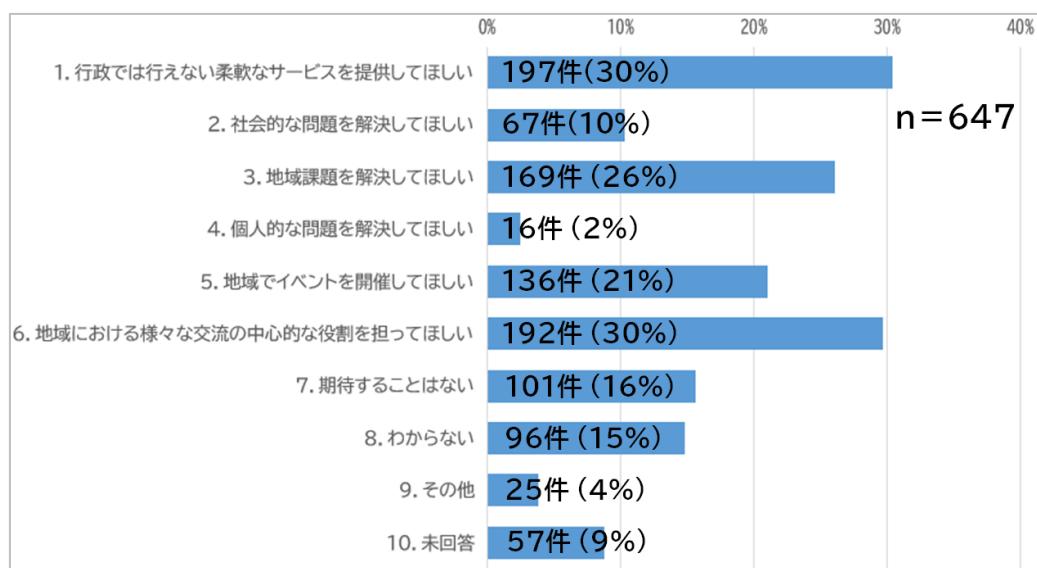


3. 地域コミュニティ活動について

(1) 地域で活動する団体への期待

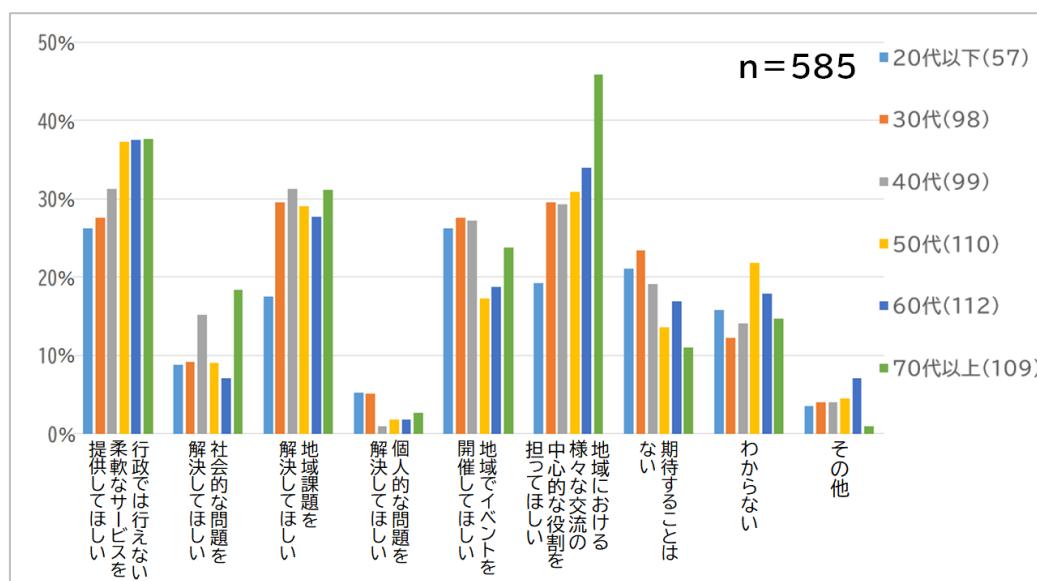
「地域で活動する団体に期待することは何ですか」(3つまで)

「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」197件(30%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」192件(30%)、「地域課題を解決してほしい」169件(26%)、「地域でイベントを開催してほしい」136件(21%)の順で回答が多い。



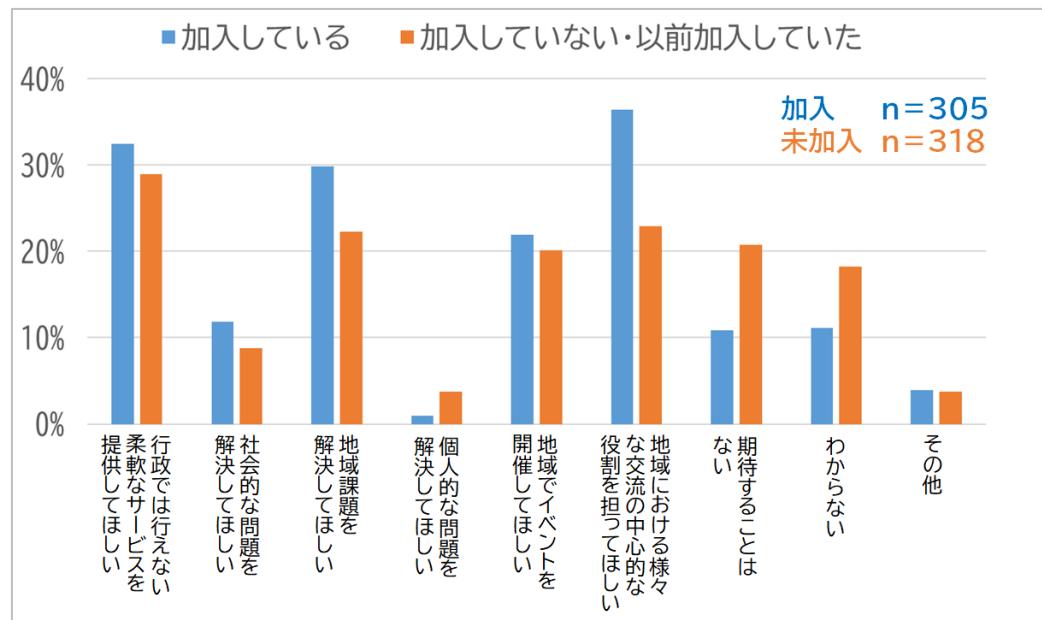
【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

年代別でみると、年齢が上がるにつれて、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」割合が高くなっている。



【自治会の加入・未加入別】

自治会の加入・未加入別でみると、上位3項目は「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」、「地域課題を解決してほしい」で差はないが、未加入では「期待することはない」66件(20%)、「わからない」58件(18%)割合が高くなっている。なお、自治会以外の地域の団体活動への参加・未参加別でみても、同様の傾向がみられる。



【その他意見】(一部抜粋)

- ・防災、教育のために近隣住民との関りを作る機会を設けていただきたい。
- ・若い世代、これまでなかった意見や考え方を受け入れる柔軟性。
- ・新しい人も気軽にに入る環境にまずしてほしい。
(新規住民に対する柔軟な受け入れ体制)
- ・時間が取れない人でも気軽に参加できると助かります。
- ・若者同士が気軽に参加できる場を作ってほしい。
- ・一時預かりなどの子育て支援。
- ・居場所作り。
- ・きめ細かな防災対策。
- ・外国人との交流、文化の違い。
- ・個々人が自主性を持って活き活きと活動してくれればいいと思う。

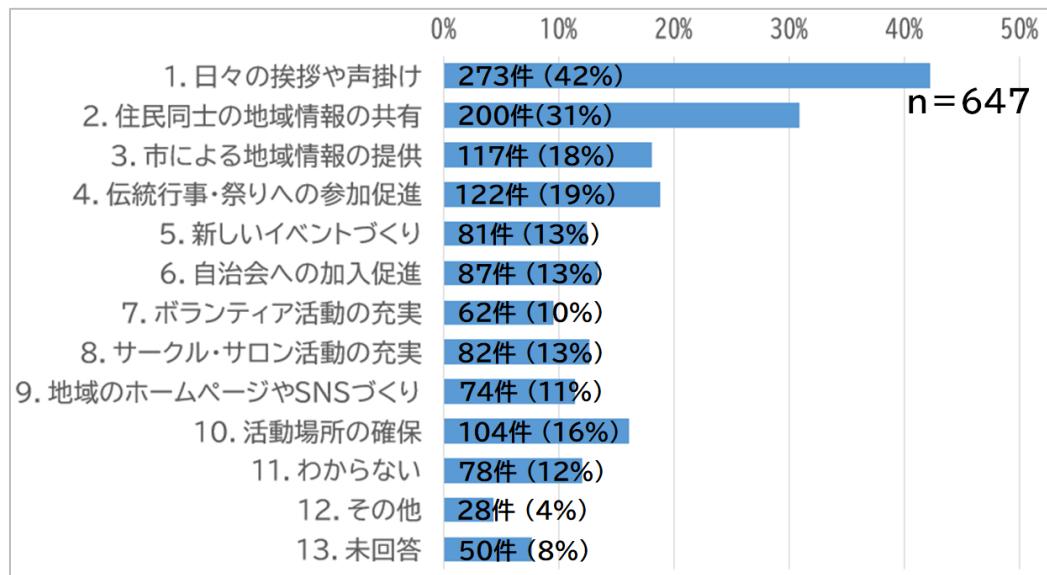
「具体的にどのようなことを期待していますか」

自由記述の回答項目のため、最後にまとめて記載しています。(41ページ)

(2)地域コミュニティ活動の推進に必要なこと

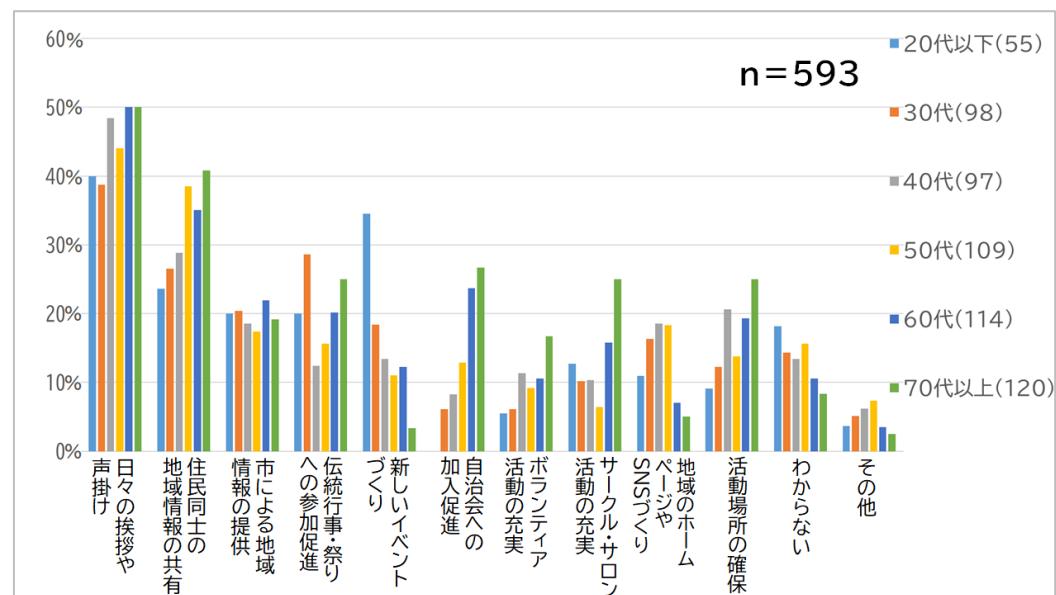
「あなたは、地域コミュニティ活動の推進のため何が必要と考えますか」(3つまで)

「日々の挨拶や声掛け」273件(42%)、「住民同士の地域情報の共有」200件(31%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

「日々の挨拶や声掛け」は全年齢で一番多い回答だが、2番目に多い回答は、20代以下では「新しいイベントづくり」が19件(35%)、30代では「伝統行事・祭りへの参加促進」が28件(29%)となっている。「自治会への加入促進」については、20代は0件、30代は6件(6%)の回答で、年齢が上がるにつれて割合が高くなり、70代以上は32件(27%)の回答だった。

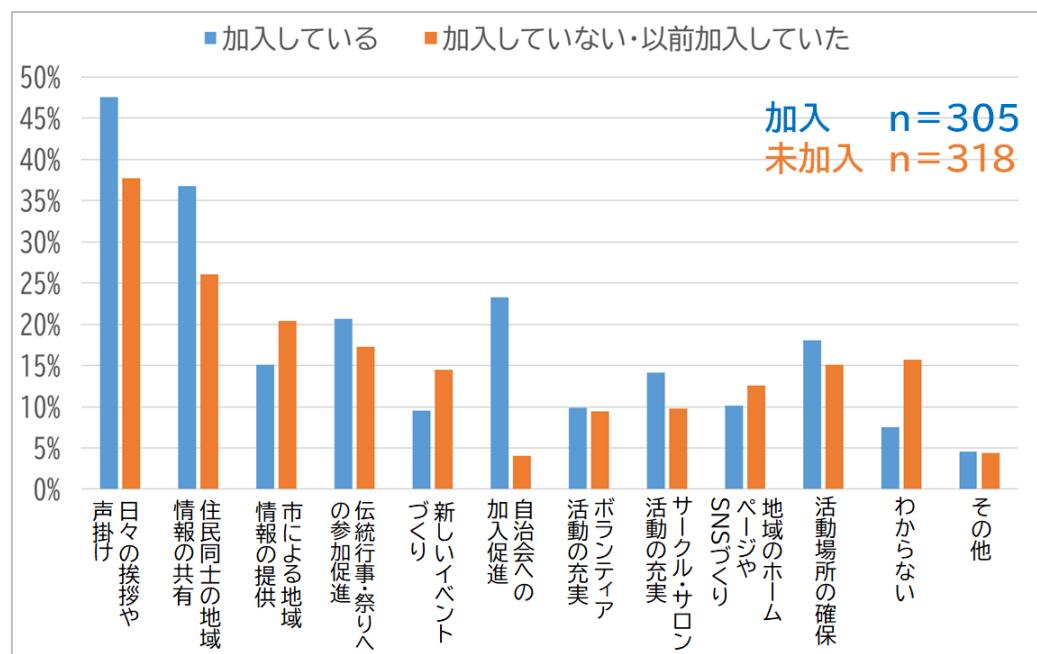


【自治会の加入・未加入別】

自治会の加入・未加入別でみると、上位2項目は「日々の挨拶や声掛け」、「住民同士の地域情報の共有」で差はないが、それ以外は大きな違いがみられる。「市による地域情報の提供」について、未加入では3番目（20%）と高い割合で回答があるが、加入では6番目（15%）である。「自治会への加入促進」について、加入では3番目（23%）と高い割合で回答があるが、未加入では一番低い（4%）。

また、対面活動である「サークル・サロン活動の充実」とデジタルを活用した「地域のホームページやSNSづくり」で比較すると、加入・未加入によって、回答割合が逆転している。（加入では、「サークル・サロン活動の充実」の方が「地域のホームページやSNSづくり」より割合が高い。未加入では、その逆で、「地域のホームページやSNSづくり」の方が「サークル・サロン活動の充実」より割合が高い。）

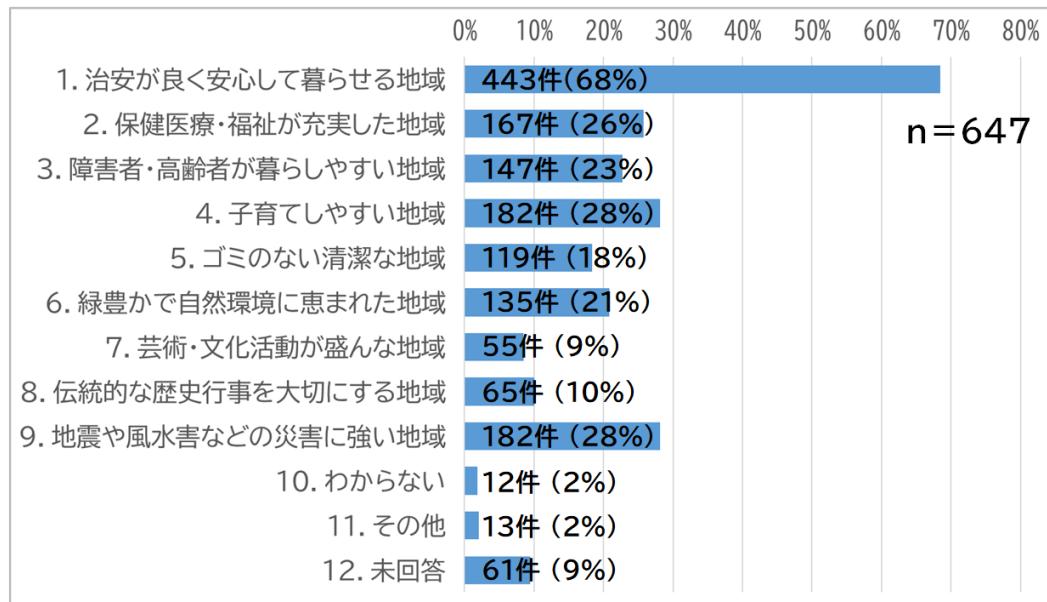
なお、自治会以外の地域の団体活動への参加・未参加別でみても、同様の傾向がみられる。



(3)目指すべき地域像

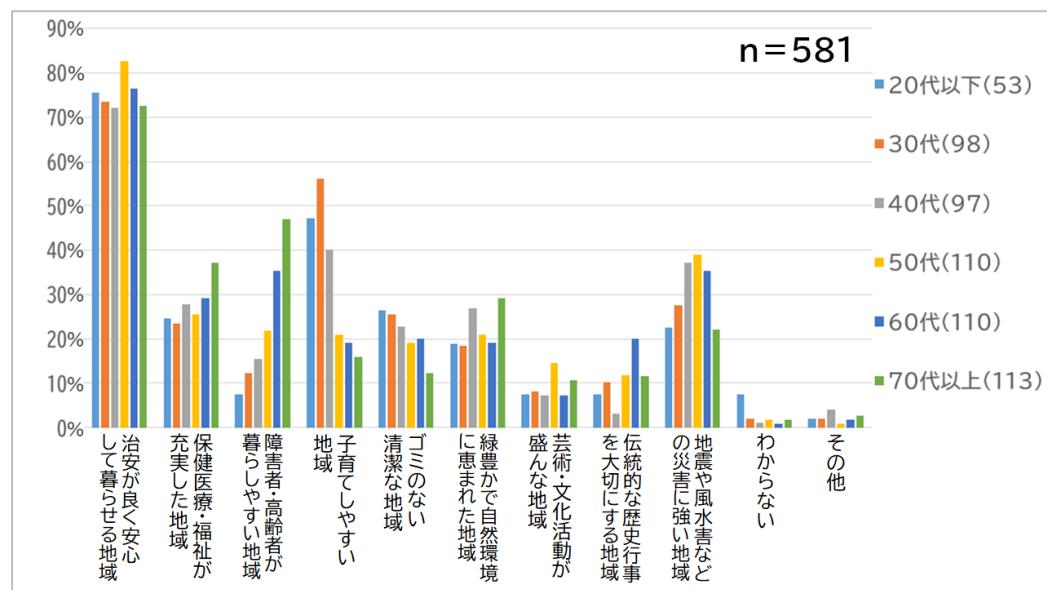
「あなたのお住まいの地域がどのようにになってほしいと考えますか」(3つまで)

「治安が良く安心して暮らせる地域」443件(68%)、「地震や風水害などの災害に強い地域」182件(28%)の順で回答が多い。



【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

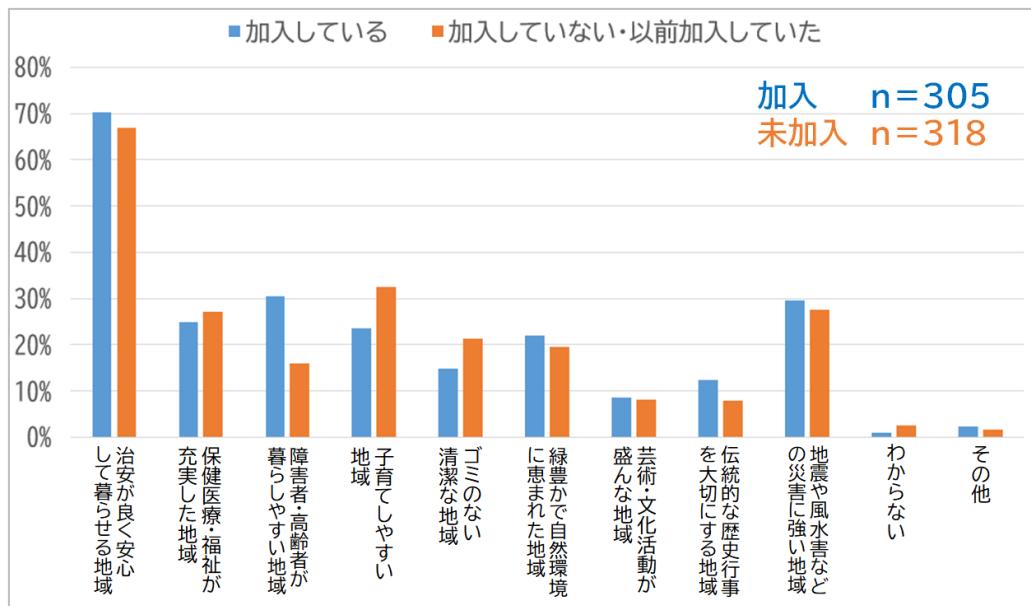
年代別でみると、40代以下では「子育てしやすい地域」が(40%~55%強)と、「治安が良く安心して暮らせる地域」に次いで回答が多い。70代以上では「障害者・高齢者が暮らしやすい地域」(35%~45%強)、「保健医療・福祉が充実した地域」(30%弱~40%弱)と、「治安が良く安心して暮らせる地域」に次いで回答が多い。



【自治会の加入・未加入別】

自治会の加入・未加入別でみると、「治安が良く安心して暮らせる地域」、「地震や風水害などの災害に強い地域」は、加入・未加入の差ではなく、高い割合で回答がある。

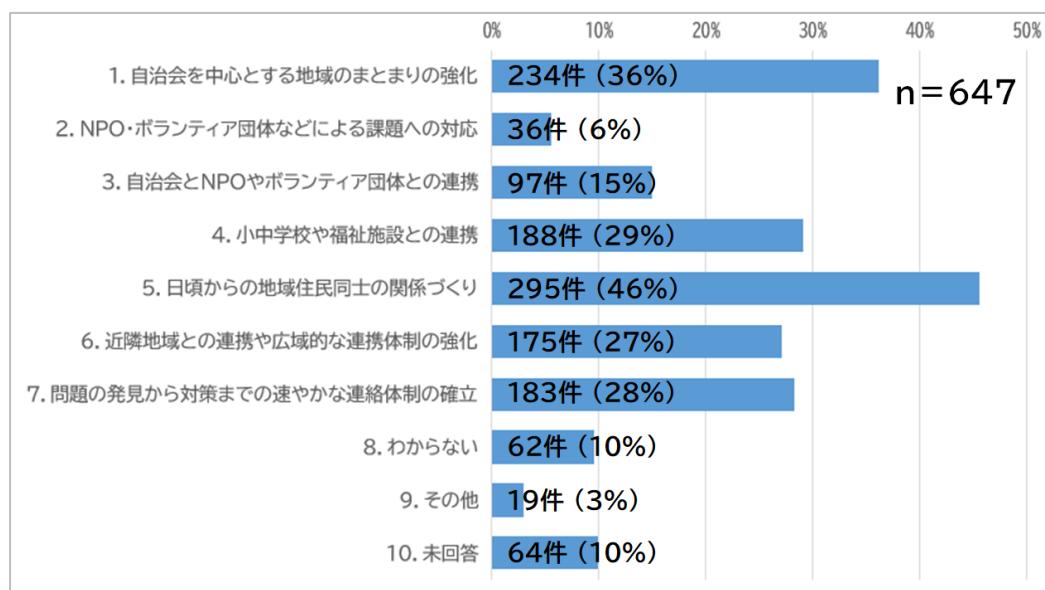
なお、自治会以外の地域の団体活動への参加・未参加別でみても、同様の傾向がみられる。



(4)地域の課題解決能力を高めるために必要なこと

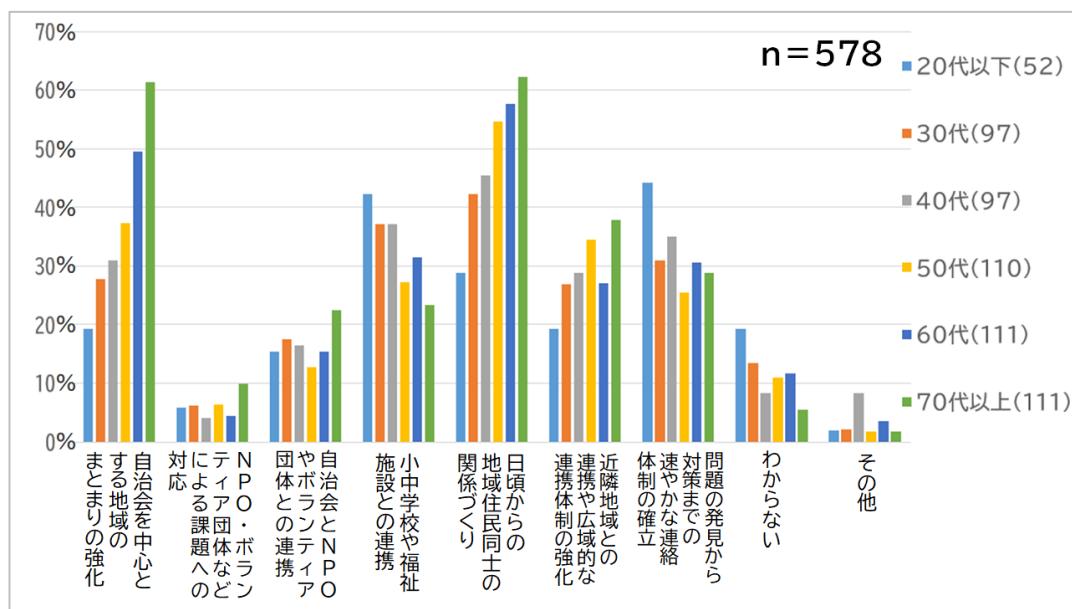
「あなたのお住まいの地域が、災害時の対応などの課題解決力を高めていくために何が必要と考えますか」(3つまで)

「日頃からの地域住民同士の関係づくり」295 件 (46%)、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」234 件 (36%) の回答が多く、次いで「小中学校や福祉施設との連携」188 件(29%)、「問題の発見から対策までの速やかな連絡体制の確立」183 件(28%)、「近隣地域との連携や広域的な連携体制の強化」175 件 (27%) の順で回答が多いが、年代別にみると、項目によって大きな差がある。



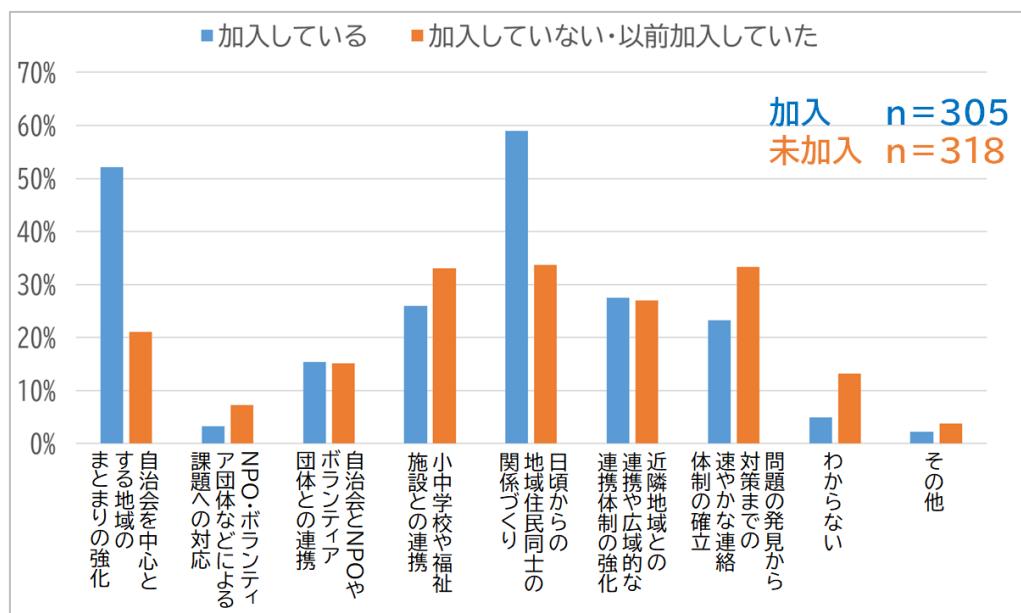
【年代別】(年齢未回答及び質問項目未回答者を除く)

「日頃からの地域住民同士の関係づくり」、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」、「近隣地域との連携や広域的な連携体制の強化」については、年齢が上がるほど、割合が高い。反対に、「小中学校や福祉施設との連携」、「問題の発見から対策までの速やかな連絡体制の確立」については、年齢が下がるほど割合が高い。



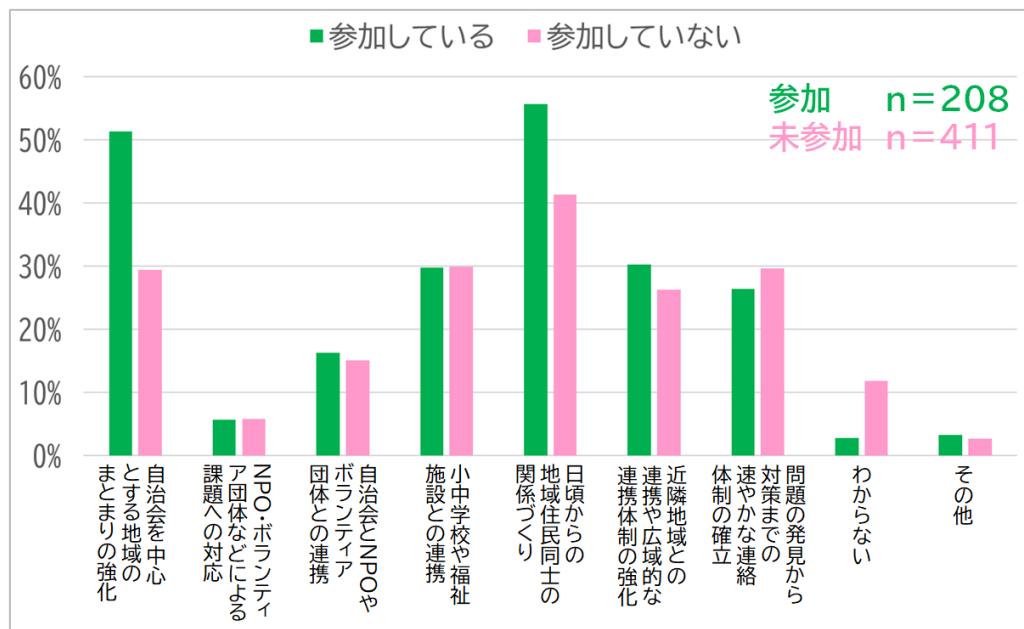
【自治会の加入・未加入別】

自治会の加入・未加入別でみると、加入では「日頃からの地域住民同士の関係づくり」180件（59%）、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」159件（52%）の2項目が目立って高い割合だが、未加入では「小中学校や福祉施設との連携」、「日頃からの地域住民同士の関係づくり」、「問題の発見から対策までの速やかな連絡体制の確立」の3項目の回答が多い（約30%ずつ）。なお、未加入でも、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」について67件（20%）回答があり、災害時対応のためには自治会・地域のまとまりの必要性があると考えている。



【自治会以外の地域の団体活動への参加・未参加別】

自治会以外の地域の団体活動への参加・未参加別でみても、基本的には、自治会の加入・未加入別と同様の傾向がみられるが、自治会以外の地域の団体活動への未参加の「日頃からの地域住民同士の関係づくり」170件（41%）、「自治会を中心とする地域のまとまりの強化」121件（29%）への回答割合は、自治会未加入の回答割合より高かった。



(5)地域コミュニティ活動に関する意見・要望

「地域コミュニティ活動に関してご意見、ご要望があればお書きください」

自由記述の回答項目のため、最後にまとめて記載しています。（48ページ）

以下、自由記述の回答項目

1. 自治会について

(7)自治会に加入している人に聞いた、自治会活動の活発化に必要なこと

「自治会の加入率が減少していますが、自治会活動が活発になるためには何が必要と考えますか」

(30代)

- ・役員になると負担が多いイメージがあるし、実際に負担です。そこを解消してほしい。自分の生活もあるので。
- ・働く世代にとってはそういった付き合い等が負担になってしまい上に会費がかかるのはデメリットだと思う。他方、防犯等は子供を持つ世代にとっては必要だったりすると思うので、その面を強調してみたらどうでしょうか。
- ・会費が還元される魅力的な所属メリット。
- ・子育て世代の加入。あわせて従来の自治会活動ベースではその活動時間を子育て世代は充てられないため、活動内容等を役員等の負担がない形に変更する必要がある。
- ・共働きの増加、高齢化などの現況を踏まえ、「運営や行事の簡略化」は必須だと思います。あわせて、「気軽に参加しやすい仕組みづくり」も必要と思う。よく見る例で、祖父母の所属する町内会のイベントに、地域の居住者ではない子どもが参加するなどのパターンがある。非会員は会費や運営への負担がないため不公平感が出るところだが、むしろ歓迎し、参加したい人は受け入れる代わりに費用や運営負担を少しでも分担できるような仕組みづくりを考えたい。
- ・自治会費の削減に努めること、会費なしでできる活動に限定し、自治会員が自らの意思で任意で活動に参加できるようにすること。(大学のサークル活動のようなものになることが理想)
- ・会費が高くて支払えない、役員になっても体調不良があるため集金さえできないといった理由で自治会を脱会する方がいるため、イベント数を減らして会費を下げる、集金方法を見直すなど工夫が必要なように思う。

(40代)

- ・かかるお金、時間、得られるサポートをシンプルに提示する。
- ・加入しなくとも特に困らない、もしくは加入した方が“費用や時間を見る”という側面があるので、ただでさえ時間に余裕がない子育て世代にはメリットが少なく思います。有志ではなく、一部の仕事という形でないと継続は難しいと思います。
- ・自治会に入るメリットを感じられることが必要。私が住んでいるのは新しい地域なので、子どもが多くお祭りやイベントを開催すると楽しんでくれているのが分かるから、協力できることはするし参加したいと思う。
- ・何をしても現状は変わらないと考える。SNS等の活用により、遠くの人とつながることができるようになったため、あえて近所の人と交流する必要がなくなっていると感じる。この

のような形がスタンダードとなっている現在、地域の人（特に日中仕事をしている人）にとつては、自治会が様々な活動をすればするほど負担を感じ、余計に自治会に加入しなくなる（または脱退する）と思う。結局、つながる人はつながるし、一定数いるイベント好きな人達が今後も自治会を引っ張っていくことになるのではないか。

- ・災害時に地域で助け合う関係構築の必要性を共有していくこと。
- ・楽しめる行事と負担軽減。
- ・交流。
- ・自治会費を安くすればいいと思う。月に 2000 円は高い？
- ・現状にあった取り決め（ルールや活動）と柔軟さ。現状加入している若い世代が魅力を感じるような、加入していく楽しいと思えるような環境。
- ・顔の見える関係づくり。
- ・若い世代の取り込み。若い世代へのアプローチがない。魅力的でない。高齢者の茶話会…誰が行きますか？イベントには人が集まりますが、宣伝活動が一切ない。自治会が主導となってやっていることすら知らずに参加している人も多いです。私の地域では、子ども会が世話人のおかげもあり、うまく自治会との連携が取られています。若い世代の関与に寄与しているかと思います。しかしながら、自治会への参加は別物と捉えられている。（子ども会に参加していれば自治会活動にも参加しているし、いいよねーって具合。）自治会には別の目的や意味があると思う。あと一歩な気がします。こういうことをきっかけに自治会も、子供や若い世代向けへのアプローチ…して行けばいいと思う。
- ・地域のコミュニティに付加価値を付ける。
- ・近年、新築の住宅や賃貸物件などが増加してきているため、転入者が地域になじんでもらう第一歩として、自治会活動を活用できると良いのではないかと感じます。
- ・地域の情報共有。
- ・マンションには管理組合もあり、混同されるなど自治会の役割が十分認識されていない。マンションにおける自治会の役割をもっと認識してもらう工夫が必要。
- ・ご近所とのコミュニケーション、自治会加入者に粗品など配る。

（50 代）

- ・定例の活動はできなくても、イベントごとの手伝いならできるという方がいると思うので、活動内容別に人を募る方法など柔軟に対応するべきだと思います。行政が主催する主なる活動は平日が多いので、これから自治会活動を展望するなら土日にも開催することを検討すべきと思います。
- ・自分の自治会に限って言えば、自治会役員に対する市やブロックの都合で開催される行事や仕事（配布物や回覧）の負担が大きく、役員をしたくないがために退会する人が後をたたない。市は良かれと思ってやっているのであろうが、自治会地域に限定した事に関心があるのであって、それ以上の行事にまで手を広げたいとは思わない。
- ・各自の負担を減らした方が良い。
- ・活動内容の周知と積極的な勧誘。
- ・周知と勧誘。
- ・役員の負担を減らし時短で効率的に。
- ・入ると得をする…というイメージが高まると良い。

- ・役員の地道な活動。
- ・自治会活動を最低限にして、誰でも参加できるようにしないと加入しないと思う。
- ・高齢者も増えてきていて自治会自体の活動も難しくなってきている。外注出来る部分は外部に任せたらいいと思う。
- ・役員や掃除当番の、一人あたりの負担の軽減があると良いなと思います。また、役員をやつたときに、電話での連絡網を回すのは時間と手間もかかりましたので、メッセージアプリなどで複数人に連絡や応答を取れたら楽だったかと思います。
- ・楽しい自治会であること。防災訓練等にて顔見知りになること。
- ・役員の負担を減らすことと、加入率を上げる為、防災やイベントを皆で出来る様な体制を作ればと思う。
- ・地元の自治会では加入している方の多くが高齢者です。また、何年かするとみんな高齢者になります。回覧板や会費等の集金、お祭りなどイベントの仕事が負担になっていて、退会する方が多いと聞きます。また新しく引っ越しで住まわれた方については、自治会加入は面倒だというイメージがあるようです。災害があった時の助け合いや、見守り確認など、地域にしかできない自治会活動を丁寧に発信していく事が新規加入者を増やし、活動が活発になるのではないかと思います。各自治会の判断になるでしょうが、70歳以上の高齢者については、自治会は加入しているが、班長等は免除したり、イベントごとに班長、役員だけでなく地域みんなでやる仕組みがうまくできたら良いと思います。
- ・楽しいと思わせる何か。また、個人ではなく地縁団体だからこそ地域改善に向けた取組。
- ・定年退職後の男性が地域に馴染みやすくなるよう、催しなどを広報や会報で周知する、など。
- ・新参でも入りやすいような間口の広さ。
- ・会員同士のつながりを深める活動の企画。
- ・高齢者を把握し、見守り・お茶会などの企画。
- ・子育て世代とそれ以外の世代を結びつける助け合いのシステムの構築など。
- ・かたちになって得るものがある。草刈り等参加するとゴミ袋もらえるなど。フリーマーケットなど。
- ・若い人が自由にものが言える空気。
- ・会員のメリット。
- ・会員増強は、ライフスタイルの変化や核家族化、個人の意識などから難しい課題と考える。一方で、自然災害発災時に地域での助け合いが重要視される中にあっては、自治会を中心とした地域で活動する団体同士の顔の見える関係性づくりや協力体制の構築が必要と考える。
- ・そもそも加入者が減少している。新規引越者が加入してこない。活動が面倒だと思っていたのではないか。役所から転居届提出時に案内書面を配布するなど広める動きを役所から側からも進めてほしい。
- ・加入者と非加入者の差が無いと感じる。自治会に入ることへのメリットの周知拡大。
- ・役員など、市からの依頼の仕事。
- ・自治会加入のメリット（非加入者より税金面で優遇とか、入らないと受けられない嬉しい特典を増やす）。
- ・自治会役員の外部委託化（市の委託で対応し、役員持ち回り不可による長期間固定を避ける

ことで特定個人の負担軽減)。

- ・市からの支援や転入者への勧誘。
- ・自治会に加入しているメリットを明確に分かりやすくする活動が必要であると思います。現在の自治会は、加入していると会費の負担や役員の負担ばかりが気になり、地域コミュニティの醸成のために加入しようという市民が極端にいない状況（例えが悪いですが、「自治会への加入損」のようなイメージ）です。
- ・組長や本部役員に回ってくる順番の平準化、会員加入の増加。

(60代)

- ・加入率減少は多くの自治体で起きていることで、やむをえないが、若い世代を中心となって運営できる仕組みが必要。
- ・一人暮らしのお年寄りも何かのときには安心だと思ってもらえること。助けあえることを声に出して伝える。
- ・若い人の参加。
- ・負担に感じない活動を考えること。
- ・自治会に入る事によるメリットがはっきりしていない。市の助成金を増やして自治会の活動を増やす。
- ・住民のためになる新たな活動、住民の評価（アンケート）に基づいた活動の改善、見直し、住民のためになっているという実感。
- ・楽しいこと。役員になることが負担にならないように工夫すること。助成金をもらう手続きがもう少し簡略にできないか？分からないときに聞くことができる窓口があったら良い。自治会に入るとどんな良いことがあるのかを具体的に示せると良いと思う。ただ、私が良いと思うことを他の人が良いと思うかは分からないので、難しい。誰が見ても良いなあと思うことは、やっぱり飲んだり食べたりできること、お祭りなどの楽しいことだと思う。
- ・役員の負担軽減。
- ・役員の負担が多く、やり手がない。順番に回ってくるので仕方なくやっているので、会員になって良かったと思えるように、会費などは会員へ還元できると良いと思う。運動会後のご苦労さん会や親睦会等はいらない。その分、貯金に回して、設備の改善等に役立てるなど、価値的に運営してほしい。
- ・地域活動を強制されるのではなく同じ目的意識や活動をやりたい人同士でITを活用しながら繋がっていくことができれば良いと思う。
- ・防災に特化した地域づくり。
- ・防災への取り組みなどの講座（1/20 実施「おいしい防災」）や、お料理教室の開催は地域の方々のよい居場所づくりになると思う。（定期的な開催がのぞましいが、年1回でもよいのでは？）役員の方が仕事を負担するのではなく、他から講師などを呼び込んで場所貸しをするのでもよいと思う。
- ・自治会活動の周知。
- ・防災と防犯活動です。夏祭りについては、楽しいが役員の負担が大きくて、大変です。市からの行事補助がもっとあると助かります。
- ・負担を分けて担えるようにする。

- ・難問。地元密着の商売をしている家でさえ、加入を断る。いざ災害の時にそういう人は助け合いの輪から外すというわけにはいかないので、防災助け合いに限り義務化するべき、とも思うが、日頃付き合いがなければ、いざ、という時も難しい。妙案は浮かばない。
- ・負担が多すぎる。配布物が多いので仕分け等大変になる。
- ・いかに趣味的なサークル活動を活発にしながら、さらにそこから人の繋がりを大きくしていくこと。
- ・自治会のあり方を市としても周知する必要があると思います。
- ・活動（防災、防犯など）を絞込み組織をスリム化し、役員や会員の負担（会費、活動業務等）を軽減の上、本来の自治を実現する。
- ・活動の見える化と各自の負担の軽減。
- ・親子で楽しく参加出来る防災対策。
- ・自治会が何をしているのか地域に見えるようにする。お祭りぐらいしか見えるものがない。
- ・回覧板の内容の充実。自治会に入っていると得する特典など、やはり入っていてよかったと実感させられることを増やす。地元商店の割引券配布やポイント獲得が有利になるような仕組み。自治会費を支払っても何か還元される感覚が欲しい。
- ・自治会が楽しい、入っていて良かったと思えるように親睦とか、いつでも集える場所を設けお茶場所を作るとか。
- ・自治会の加入率が減少したら活動も薄れるのは当然。それぞれの自治会で加入したい自治会になる為には、を考え、行動に移してその姿をみせて協力してくださる方と共に運営し、自治会が地域に必要なことを表現する場を作ること。時間がかかるのですが継続する姿をみせることも大切と思っています。
- ・自治会員の確保（勧誘）が必要だが、自治会入会のメリットを示さないと会員は増えない。アピール不足。
- ・ご近所のコミュニケーション、挨拶。
- ・自治会の必要性が感じられない現在、活発になるための対策は見当たらない。
- ・会長を含めて役員負担が大きいと思います。
- ・役員・会長の負担が多く、役員になりたくないから自治会をやめる・役員の順番が回ってくるから自治会をやめるという人もかなり多く、スムーズな役員交代ができません。会長に代わる代表者を行政（昭島市）から選出できないでしょうか。
- ・一度参加しても人間関係がうまくいかないと、そこでストップしてしまう。いかに楽しい輪の中に入っちゃうか…が、課題です。
- ・わかりやすい、自治会の意義と負担の少ない自治活動。
- ・役員の負担軽減、任意団体からの変更、条例で参加強制にする事、市からのイベントへの参加抑制。
- ・住民の意識改革と自治会加入のメリットをつける。
- ・補助金支援。限られた活動費には限界があり、物価高騰もあって、様々な活動が制限されている。活動費を抑えるため、会員や役員の業務負担が大きくなり、新たな加入者や役員の成り手がいない。会員の負担を軽減するため、活動に応じた補助金の支援が必要である。
- ・若い世代が入りたいと思える活動。
- ・一般的に新しく市民になった人は、何か自治会に加入することでメリットがなければ加入しようとしません。古くから住んでいる人でも高齢になり自治会の班長等の役割ができる

くなり辞める方が多い。各自治会で違いがあると思いますが、みんなで一緒に楽しめる活動があると良いと思う。具体的には各個人によって楽しいことが違うので、どのような活動が良いのか難しいが。

- ・市の広報活動の強化、市議会議員の積極的な自治会活動や教育活動、若者支援への関わり。
- ・何もないこと。加入だけに活動を絞る。
- ・隣の人も知らない人が多い世の中です。私も含めて、みんな自己中心的なんじゃないかな。子供が大人になるとなおさらです。
- ・自治会に入った場合のメリットの強化。

(70代以上)

- ・自治会への勧誘。当自治会は引っ越してきた家に対し、勧誘をしていない。先方まかせである。
- ・防災活動を中心に自治会をPRする。
- ・個人宅にうかがって加入を進める。
- ・若い方が入りやすい環境にする。自治会加入メリット等をアピールする。
- ・自治会は古い体制が強く、「今までこうしていた」…では、若い人や入ってきた家族には入りにくい・はじめない。
- ・昭島市が自治会活動の重要性とその役割、地域コミュニティ作り援助を真剣にとりくむ事。
- ・自治会館をもっているところの家賃補助を大幅に引き上げる事。見直しがされていない。
- ・自治会館のないところへの援助・支援補助金の引上げで財政的に保証する事。
- ・ボランティア活動として、すべて自治会役員が行っているが、役員にも有料ボランティアで財政的にも支援することの検討を！！
- ・市として自治会員そのものに具体的なメリットのある事を実施する。（特典が明確に！！）
- ・自治会加入率の低さは指摘され、心配されている様だが、対策がない。市の地域コミュニティ作りへの対応・予想される大災害が起きてからでは間に合わない。
- ・深入りしない（プライバシー）。
- ・近隣同士で声かけ合っている所は会員が多い。おつき合いがない所は、やめていく人が多い。
- ・楽しい事。
- ・加入への声かけ。
- ・全体をシンプルに、行事やイベントの負担を少しにして、若い人に活動してもらえるよう（子どもも含めて）な形に、住民が求めている事をしっかりと把握する。
- ・都知事などが率先して加入をアピールし、戸別にパンフレット等を配布し勧誘を回る。
- ・市の条例化。
- ・個人情報保護法に対する意味で必要と思われる。
- ・現在の会員、役員も高齢化しています。学校の教育現場から見直す様に願います。
- ・自治会員の高齢化が進んでいる。若い世代の加入者を増やす事（若い世代がなかなか加入し

ないのが現状)。

- ・住まいの関係で自治会には、場所（イベント時）の寄付（寸志）を出す。
- ・自治会の会員（場合によっては非会員も含め）が自分たちでできるサークル活動に補助金を出して支援してほしい。
- ・近所の適当な距離を保ったお付き合い。地域の人が気軽に参加できる地域イベント。
- ・人と人との交流だと思いますが、若い人は、昼間は仕事、土日は家族サービスで地域に参加する機会が無いでしょうが、興味ある行事（イベント）で誘いたいところですが、まつりや餅つきでどれほど人が集まるか、新年会・忘年会や日帰りバス旅行の実施も提案しますが、難しいですね。
- ・声かけ。とにかく笑顔で接していくたい。
- ・入会しない方々の意見を取り入れて頂きたい。現代にマッチした“自治会”を教え・考えて頂きたい（プロの方に）。若い人達をとり入れる方法を教えて頂きたい。また自治会のデジタル化に向けた取り組みを強化してほしいが、70歳をこえるとスマホの使用等ができないので、解りやすい説明（文字）をして頂きたい。
- ・若い人増やす。
- ・高齢単身世帯・老々世帯の増加で回覧板も回せない。役員のなり手がない状況を改善したく、新しい会員募集を行っても加入者が少ないのが現状。回覧板をタブレット化したいが高齢で操作ができない家庭も多い。各家庭を繋げるテレビ配信等が有効と思われるが…
- ・難しい！（6）の項目を負担と表面上は言うけれど、近助つき合いが面倒と考える世帯が多いのと、現状こまり事がない為だと思う。
- ・加入することでのメリットをアピールする。安心安全なくらしのために必要だ！ということをうたったえる。
- ・地域行事（まつり等）の活性化。
- ・子供会の設置。
- ・若い人の役員参加。
- ・この事は感じていますが、難しい問題で明解は思いつきません。ただ生活が多様化して、趣味も多様化し、住居も持ち家・アパート等、様々な今日、活発化する特効薬は思いつきません。昭島市内だけの問題ではないのかも。
- ・各戸への呼びかけ。
- ・自治会の名称が古い（例. コミュニティ にするなど）。
- ・団塊の世代多い、都営アパートです。昔は、小低学年の子供達が主役でした。祭り・運動会、活気がありました。子供達は外へ独立し、現実は定年が延びて、仕事や生活が優先。高齢者は、体調理由に自治会どころではないと言う。早期の世代交代が必要です。
- ・コミュニケーションする場。
- ・専任役員制で運営。会長になるのを避ける為、退会するというパターン。これを無くし、安心して、会員をつづけられるようにする。

- ・普段から結構親密な関係が近所にある。その隣までいけばいいなと思う。
- ・自治会単位での活動事業は高齢化や人口減で支障をきたすのが現状。他地域との協働が求められる！
- ・現実、自治会活動は理解しても行動ができない。つまり他人の積極さが足りない。人まかせ。私が役員をやって言える事は、若手に引き継がせない。せめて70代になってから。
- ・一度、区長会長などをすると脱退する方が多いので、あまり行事が多いのもむずかしいようです。
- ・大変むずかしい問題です。世の中が大変変化しているのに、自治会が行っていることは何十年も前とちっとも変わっていない。地域に、人には何を望んでいるのか、問題があれば市役所に行けば良い、あるいは社協に行けばよい…様に機関があります。では自治会は何のためにするのか、ますますわからなくなってしまいます。現在、昭島市では戸建ての家が多くなっている。その人たちに5年間自治会費を市が負担してもらいたい。5年もすれば収入も増えるのでは。
- ・世代交代で新たなアイデア。若い世代が 参加することを楽しめるような企画。高齢者世代との交流。
- ・自治会に入ることで、安心安全に暮らさせることをアピールする また実際その仕組みを改善すること。
- ・自治会加入は法律的に任意である以上、加入促進は難しい。地域に住む以上、加入は義務と思う。しかし、役員は集金等の負担が重くなるため誰もが避けたい。一層のこと集金義務を撤廃し、各自治会への活動助成金制度とし、皆が集金の負担が無くなれば、自治会は住民の義務として安心して活動できるのではないかと思います。
- ・行政↔自治会の繋がりを明確にし、自治会の存在をもっと活発にする。三役に報酬を。
- ・負担の少ない自治会活動魅力的な行事が多いこと。
- ・ゆとりのある働き方。
- ・イベント等の参加。
- ・ご近所づきあい。
- ・若い世帯への加入の働き掛けを積極的に広報するなど、地域への意識を持ってもらうようする。
- ・ご近所カードの内容の充実。特に割引率のアップをお願いしたい。
- ・責任を持たされることが、気が重いため。書類作りがなぜか多い。パソコンで作成が大変なため。
- ・役員になると、連合会、市役所等の参加依頼が多すぎるので、それを減らすこと。
- ・市からの助成金の増額。
- ・役員強要。
- ・子供会がなくなった事が一つの引き金かと、合わせ高齢化が進み行事等の手伝いに支障、若手の入居者も居るが、中々今の人たちは団体での活動を好まない点かと…自治会の魅力を

感じて無い方も増えて来た事が要因と思われる?互近助カードもあるが、余りメリットを感じて無い?子供がいた時は、子供の行事に参加をさせる為のメリットもあったが、夫婦、一人住まいとなると、自治会加入してもとなって来た事が減少の要因かと?メリットをどうするかが鍵になる?更なる検討が必要と思います。

- ・隣近所との付き合い。
- ・自治会活動の重要性、地域コミュニティの役割・大切さ、防災などまちづくりの意味合いを、継続的にPRしてほしい。
- ・自治会活動への財政的援助、補助金の増額。
- ・自治会館の土地建物への補助が少なすぎる。時代に合った見直しを抜本的に行ってほしい。

3. 地域コミュニティ活動について

(1) 地域で活動する団体への期待

「具体的にどのようなことを期待していますか」

(20代)

【自治会未加入】

- ・節約料理など、生活に役立つイベントの実施。
- ・若い人が盛り上がりそうなイベントがあると良いと思います。
- ・お祭り等のイベント。
- ・近年は住宅供給が増え、転居してくる住民が多く感じる。その為、昔から住む住民とのコミュニケーションをとる機会がないと地域内で孤立してしまい、災害や家庭の状況に応じて助けを求め辛い環境に陥ってしまいやすいと考える。このことから、四半期や半期を目安に新規転入者を誘って交流の機会を設けるイベントを開催してほしい。
- ・女性が安心して暮らせる街づくり。
- ・子どもと大人で参加できるような季節イベント、ゴミの排出量を減らすためにもフリーマーケットなど。
- ・名前の知らない人同士でも共通の話題を話したり、すれ違う人に挨拶をしても無視されない町にしたい。
- ・自治体との接点等として機能してほしい。

(30代)

【自治会加入】

- ・子供が参加できる何か。
- ・地域の交流のきっかけになるようなイベントは継続してほしい。運営の方法は時代に合わせて変えていく必要があるが、イベントを通じて地域の交流が増えることを期待したい。
- ・子ども食堂や食料配布場所の運営。私の住む地域ではないが、ひとり親であったり家庭に何

か抱えている方の多い地域は、夕食づくりも負担になるようなので、月一回、一食だけでもサポートがあると良いように思う。

【自治会未加入】

- ・夜間の見廻り、騒音などへの注意喚起。
- ・お祭りや初詣などの伝統行事を継承していくことは、大切なのではないでしょうか。
- ・定期的に子供を含んだ遊べるようなイベント。
- ・子供が参加できるイベントを増やしてほしい。
- ・ボランティアで困っている人の助けになってほしい。何でも屋。
- ・住民の見守り。
- ・道路族問題、ペットの鳴き声による騒音、住宅密集地でのボール遊び等の生活問題に対する認識の啓発。
- ・一件一件確認するなど市では手が回らない所まで。
- ・道端に落ちている犬の粪やゴミを綺麗にするなど。
- ・災害が起きたときの地域の高齢者や障害のある人、子育て家庭への避難、避難生活の支援、高齢者、障害のある人見守り、防犯、交通安全。
- ・多世代交流の場を提供し、孤立防止に期待したい。
- ・夏祭り、自然環境について考える会など。
- ・地域での助け合い。高齢者で独居の方の見守りやサポート、地域への参加を促すなど。
- ・行政サービスとして、事業としては成り立っていない部分を有償または無償で連携してほしい。
- ・公衆衛生の維持など。UR の団地に住んでいるが、自治会員有志（主に高齢男性）が分別違反ごみを自主的に見回りし取り締まっているのをしばしば見かける。私はこれを個人的に「ごみ警察」と呼んでおり、自分自身も過去に月曜収集の可燃ごみを日曜日の夜のうちに出して怒られたことがあるが、反面こういう活動があるからこそ集合住宅のゴミ捨て場が荒れずに済んでいるのだろうとも思う。

（40代）

【自治会加入】

- ・居場所づくりや、悩みを共有できる場を作りたいと思っている。活動することにより、市民や自治体に、私たちについて知っていただきたいと思う。
- ・地域コミュニティに参加するきっかけとなる活動を期待します。
- ・中年の趣味活動。
- ・都営住宅の自治会費の集金がむずかしい（外国人）。説明した時は、OK と言うが理解していただけていない様で、未納者がいる。都の共益事業費を使えば、都が集金してくれるらしいが、金額が高く、皆様が払っていけない。外国人の方への支払い説明を強化して頂く事を期待する。

- ・過去のイベントに囚われるだけではなく、今現代の子どもや親世代の居心地の良い環境づくり。
- ・活動に対して個々人が自主性を持って活き活きと活動してくれればいいと思う。結果として地域の活性化や自治会加入等の人の繋がりが強化されると思う。目的が地域活性や自治会加入率向上でないという事。
- ・行政がフォローできない課題に対応してくれる団体を応援してほしい。
- ・高齢化社会。近所とのコミュニケーションが必要なはずなのに気薄な方々もいるかと思う。地域で、近所同士で、それぞれを見守り、助け合う環境作りに期待したい。ゴミ捨てのお手伝いとか。
- ・地域のコミュニティが広がる、繋がることに期待しております。
- ・今後増えることが想定される身寄りがない高齢者や、夫婦共働きで一人になってしまう事が多い子どもなど、誰々さんの家の誰々が困っているというような、行政では対応することが難しい、地域の身近な悩み事などに一緒に取り組んでいくことを期待しています。
- ・環境や防災などの地域課題。

【自治会未加入、わからない】

- ・人のつながり、健康的な生活。
- ・お祭りなど。
- ・お兄さんやお姉さん達との繋がりがもっと欲しい。
- ・親子で楽しめることできる。
- ・ウクライナ避難者の支援、状況連絡、災害地域へのボランティア、支援提案と実行、緑化活動、緑を観光資源にする活動（街路樹で緑の下を散歩やサイクリング出来る街道を整備して人を呼ぶ。アウトドアビレッジとの連携で緑を資源に。）。
- ・緑豊かな昭島市のいいところを守っていく活動。
- ・お祭りなど、世代を問わず楽しめるイベントを実施してほしい。
- ・納涼祭や餅つき大会など、行政では行えない地域密着のイベントや交流会。
- ・DXの推進のためには、スマホやタブレット端末などの操作が不可欠である。高齢者向けのスマホ教室等を自治会の中で草の根的に適宜実施することなどが必要。
- ・地域課題を積極的に解決してほしい。
- ・地域の人々と知り合うきっかけがほしい。
- ・子供たちが参加できるイベント（運動会とかスポーツ系）。
- ・障害のある子の遊ぶ場所つくり。
- ・困りごとのある子ども、その親の支援。
- ・夏祭りとか。
- ・茶話会の様な住民交流の場、生活の中での問題（カゼなどの病気で、その日のお料理が作れない時に、ご近所さんのごはんをおすそ分けしてもらえるしくみなど）。

- ・隣の家でも顔を知らないことが多いので、顔見知りを作る場を通じて地域の防犯力を高めてほしい。
- ・子供達の見守り、犯罪防止の地域ぐるみでの取り組みなど。

(50代)

【自治会加入】

- ・高齢者の見守りなど。
- ・誰もが気軽に楽しめるイベントの開催。
- ・大きなイベントでなくてよいので、人と人がつながる場が増えたらよいです。
- ・防災関係等について。
- ・少年スポーツ団体に参加しているが、学校が協力的ではない。
- ・障害のある方や高齢で不自由のある方の社会参加や支援など。
- ・お祭り開催や防災訓練。
- ・あまり具体的なことは思い浮かばないのですが、近所の方でも話したこともない、挨拶もないという事が多々あると思いますので、挨拶するようになると良いと思います。
- ・周辺の道路整備等により交通の流れが変わっていても変わらない交通規制の見直し。
- ・普段からの声掛けと顔の見える関係づくり。
- ・地域における趣味サークル。
- ・楽しいことがあると良い。
- ・子育てサポート。
- ・災害発災時の共助の仕組みづくり、高齢者等の見守り。
- ・「広報あきしま」の市民団体が発信できる紙面は限られているので、もっと広く市民がつながれる場を提供してほしい。補助金申請のノウハウ・テクニックを教えてほしい。
- ・小さな自治会に所属しているので、近隣地域の交流が限定的であり、ある程度の広い地域との交流を持ちたい。高齢で自治会から退会された後は、新たに引っ越して来られる方がいないと会員数が増えないので、消滅の危機にある自治会での交流のみではイベント開催が困難なため。
- ・お祭り等。
- ・「この地域に住んで良かった」、「自治会に加入して良かった」、「自治会の活動に参加して良かった」となるような、実際にメリットが享受できる体験ができると良いと思います。
- ・色々な地元の件についての「継承」。
- ・学校や保育園、幼稚園との連携。

【自治会未加入】

- ・社会ルールの矛盾。更生した立場の人間を実際の社会で取り組みに参加させるのか。
- ・高齢者と若い方の交流の場を作ってほしい。お祭りなどは、垣根無しで行うなど。

- ・親しい人にならちょっとした悩みや困りごとを相談しやすいが、よく知らない人へはプライベートなことは相談しにくい。
- ・いざというとき共助が必要だと思うため、近所の方々とは緩いつながりは持っていたい。そのためだれでも参加できる非公式な集まりを開催し、気軽に近隣の方たちが顔見知りになる機会を作ってもらうことを期待している。
- ・そもそもご自身の攻撃性の強さに気づいてもらいたい方がいるなど。柔軟なところで言動などの声が届かないことがあるかもしれないけど、どのへんまでとかわからないですが。
- ・SNS 等の活用。
- ・生活困窮者をなくす。
- ・安心して住める地域。
- ・本当に地域の輪が広がればすべきだと思う。それには柔軟な気持ちで接してほしいと願います。
- ・地域の人達と親睦を深めたい。

(60代)

【自治会加入】

- ・行政の協力のもと、市民に積極的な情報提供を。ウェルカムの発信。入りづらいから。
- ・自治会に入っている・入っていないにかかわらず誰もが参加できる交流会。
- ・市職員では対応できない、災害時発生時の安否確認（特に要支援者に対する確認）、情報集約、市と連携した災害支援活動。
- ・居場所作り。子どもや高齢者というように年齢を限定しなくてもいい。いつでも誰でも行ける場所を作つて、困ったら相談もできたり、勉強も教えてもらえたり、おやつや食事ができたりすると良い。
- ・地域に住む人たちが誰でも参加しやすいイベント。
- ・いろいろな団体があるので、その支援や橋渡し的なものであり続ければよい（ひとまず）。
- ・防災発生時に地域で協力して、のりきることができるよう、普段から顔見知りになる必要がある。
- ・防災、避難所運営など、発災時における地域住民の基本的な役割分担を明確にし、周知徹底を図る。また、計画的に訓練を実施する。
- ・活動している情報を積極的に知らせてほしい。
- ・ブロックでの夏祭りや、餅つき大会も復活し始めているので、その点は満足している。みんなで、盛り上がるよう、サークル活動での発表の場を設けることに期待。
- ・団体が沢山あり、役員も各団体で重複しているので、各団体の役割が不明瞭になっているような気がする。
- ・地域団体は活動そのものが長く続いてほしいので、地域での役割を期待すると他に行ってしまうから。

- ・地域が高齢化てきて、他人のことどころでなくなっている感じがする。1人住まいの人が増え、日常心細く頼る人も少ない。皆、順番にそうなっていくので、地域のコミュニティで何か助け合うことができたら良いと思います。
- ・近所の人とのコミュニケーション。
- ・ほどよい人間関係が作られ孤独、トラブルが減らせると考えています。
- ・地域の盛り上がり。
- ・特技がある方から、講習会して欲しい。
- ・展覧会、ワークショップ。
- ・公園など公共物の管理。
- ・イベントでは自治会に入ってない人たちにも参加してもらうことで、意識を変えていけるような気もするので、そのようなイベントが増えていけばいいかなと思いますが、なかなか難しいですか。
- ・限られたメンバーに負担が集中していることから、幅広い支援が必要。
- ・同じ地域に住む者同士が、互いに協力し、もっている能力を活用し、地域課題の解決だけでなく、自己だけでは解決することができなかった問題を解決につなげることができる機会を得ること。
- ・今は健康だけど、歳をとった時、気軽に話ができる人がほしい。
- ・一人住まいの人、高齢者の家庭、体の不自由な方々の見守りと声掛けの実施。

【自治会未加入】

- ・防災について。以前、自治会に入っていないと、災害時に飲料や水を分けてもらえないと言った。行政のマニュアル通りの支援ではなく、困っている人に最も必要な支援をして貰うことを期待しています。
- ・人々の交流。
- ・災害時の応援等に重要な役割を果たして欲しい。
- ・子どもたちがつどえる場作り。
- ・自治会は以前班長等を経験したが、古参の人々の場になり入会の意味を感じない。
- ・居場所作り。
- ・高齢認知症の母が、一人で留守中にエアコンを切ってしまう。必要な時にご近所さんに見て欲しい。
- ・高齢者が簡単にできる体操教室。自分の住んでいる地域には必ず学校があるはず、遠くまで、通えない高齢者でも、地域の学校まえなら、なんとか通えると思うから。
- ・地域の皆さんのかつとしたお困りごとに対応するような活動。いわば「何でも屋」「便利屋」が商売としてやっているような事。その他行政窓口利用への同行支援であったり、書類作成お手伝いであったりも支援して下さる方があれば大変受け手・窓口職員としても有り難い。

- ・自治会に、入る入らないは別にして、地域の住民同士の交流を、もっと、大切にしないといけないと思います。
- ・電話ボックス程度の大きさで良いから各自治区に警備棟を起き、近隣住人との情報交換の場にすると良いと思います。日報を置くことで巡回する警察官との情報共有で治安維持に役立つかもしれません。

(70代以上)

【自治会加入】

- ・お互いの助け合い（共助）。
- ・私の自治会でも、通常の自治会活動を支持するので大変。地域で連携・交流している各自治会も高齢化したり、若い人们は生活に追われているということもあります、何處も苦労しているのが実態。その状況に見合った市の援助を期待したいです。
- ・今頑張っている自治会への援助や、全国で進んでいる自治会活動の例なども紹介・取りまとめる様な内容も知らせてほしいです。
- ・企画する。
- ・空き家等を活用して、そこに行けば誰かに会え、仲間と一緒にごはんを食べたり、お話ししたりして、楽しい時を過ごせる場所があればよい。
- ・不用品フリーマーケット。
- ・交流の輪を広げる場。
- ・こども食堂、NPO団体に協力する。
- ・年に一度の納涼祭があるが、他にイベントをやって欲しい。（特に子供参加のイベント）
- ・楽しければそれで良い。
- ・地域住民が参加できる気軽なイベント。普段出会いがない人々が会える機会になるもの。災害を最小限にしていく具体的な指導、地域の公共施設の充実、設備等の迅速な対応等。
- ・集まる場所が欲しい。
- ・高齢者や児童の引きこもりを防ぎ、健康寿命を延ばすこと。防犯・防災に必要な情報を共有すること（振込詐欺等も）。
- ・自治会活動の紹介と実践など。
- ・広い年代が参加したくなる祭り・盆踊り
- ・行事（まつり、もちつき等）の継続的な開催。
- ・集合住宅での暮らしの中で棟の会費の中で毎年予算が多く、次の年度に繰越しがされている。それでは意味がないので、防災の時の品物等を配って欲しい。棟会費は余るほど集めないで欲しい。何か楽しいイベントを企画してほしい。
- ・地域でイベントを開催するサークルの立ち上げを応援してほしい。
- ・高齢者が多い自治会であるので具体的に指導してほしい。
- ・芸術・文化の豊かな地域作り。

- ・私は夏まつりでの踊りをさせていただいている。毎週1回練習しています。地域の夏まつりを少しでも盆踊りで賑やかに楽しくと思って、健康かねて数人（8人程）で踊っているのですが、なかなか人材不足です。高齢でこられなくなったとか、様々で、人が減っています。PRし、いかに盛り上げていくかを思索中です。
- ・高齢者のデジタルデバイド解消のため、地域の集会所など小さい単位での定期的なスマホ講習会。異世代交流で地域在住の協力者が育つと良い。
- ・無職で社会とのつながり薄くなりがちなので、行くところを確保したい。
- ・行政から連絡を近づけてもらいたい。地域の人達の事をもっと早く実行して下さい。
- ・老人クラブが解散してしまい、高齢者の居場所がなくなってしまった。サロンの様な気軽に集える場所と運営するボランティアが必要だと思う。
- ・地域で住みやすい環境を作ること。
- ・かなり、高齢化が進んでいるので、自治会内の連絡網を充実したい。

【自治会未加入】

- ・道路のゴミ除去・美化。
- ・関心のある人たちが集まって、活動する。（同じ考え方や嗜好が同じ・強制ではないなど）遊び・ボランティア・畑などの土いじり・カメラ・写生等。
- ・行政で手が回らないきめ細かな活動をして欲しい。
- ・一人住まいの見守り。

3. 地域コミュニティ活動について

（5）地域コミュニティ活動に関する意見・要望

「地域コミュニティ活動に関するご意見、ご要望があればお書きください」

（20代以下）

【自治会未加入】

- ・閑散としているくじらロードの商店街を復活して欲しい。
- ・少子化、高齢化共に深刻な問題であり、今後に向けて自治会等はより能動的に地域住民の自助・共助の重要性を伝え、それに対する地域での関係構築が必要不可欠になってくる。このことを踏まえたうえで何を優先すべきか、参加しやすい自治会等（地域コミュニティ）にするためには何が必要か試行錯誤を重ねて欲しい。
- ・自治会活動が活発になるには、若者にメリットを感じてもらえる仕組みが必要だと考えます。
- ・今は市民が自分たちで調べないとわからない状況なので、SNSを通じて市が積極的に発信してくれると、住民の関心をもっと引けると思う。

(30代)

【自治会加入】

- ・私の所属する自治体は祖父母の世代から地域で交流があり、地域の目の届く中で自分も育ってきた。足が悪くなった祖母にとっては、近場で顔見知りが多い環境が貴重なコミュニケーションの場となっており、生きがいの一つになっている。また、自治会のお祭りが実家のすぐそばで開催されるため、毎年夏に親戚が集まるきっかけになっている。地域コミュニティ活動があることでその自治体のみならず、その家族や学区内外まで人がつながるきっかけになっているため、時代に合わせて運営の形を見直すことはもちろん必要だが、楽しんで参加できる行事は継続していきたい。

【自治会未加入】

- ・スポーツサークルがあるといいと思う。社会人が参加できるように夜19:00~だと良い。テニスやバドミントン希望。
- ・市内には、会員数が減少している地域コミュニティが多くあること思います。
- ・もちろん住民同士の交流は大切ですが、あまり顔や住所を知られたくない住民や短期居住者などもいらっしゃいますので、プライバシーの侵害にならないよう、住民同士の交流を強制することは難しいと思います。
- ・近年、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」が注目されています。
- ・地域コミュニティ活動の担い手（「定住人口」、「会員」）を確保することも大切ですが、地域を巣立っていった人とも、垣根を越えたつながりを持ち続けることで、地域を応援してくれる心強い仲間（「関係人口」、「会友」）を増やすのも同じくらい大切と思います。
- ・市役所の窓口で転出届を受け付ける際に、昭島市や地域コミュニティの関係人口を増やすような取り組みをご検討してみてはいかがでしょうか。例えば、転出後も昭島市の発信するSNSのフォローをお願いしたり、昭島市と災害協定を結んでいる企業・団体が転出先にあれば紹介したりしてみてはいかがでしょうか。
- ・的外れであれば失礼しました。あまり気を重くせず、市役所職員の皆さんにとってご無理のない範囲で、よろしくお願ひいたします。
- ・道路・路側帯に繰り返し落書きをするお宅に、やめるよう、注意してほしいです。
- ・無駄に税金は使わないでほしい。
- ・現在の生活で地域コミュニティ活動を必要と感じていないので、活動に拘束される時間がもったいないと思う。
- ・少しでも光熱費が安い地域にしたい。
- ・過労で体を壊してから自分の生活でいっぱいいっぺいであり、体力的に地域活動への参加は難しいですが、イベントや防犯、防災のために自治会が重要なことは理解しています。避難所の運営も地域住民の自主運営になると思いますが、どのような運営活動になるのかい

まいち分かりません。

- ・自治会の活動の様子がわからないのも縁遠くなる理由だと思うので、ホームページや SNS の発信があると良いと思います。
- ・自治会の加入率が低下している以上、自治会の加入推進をするだけでは地域の連携を図っていくことに限度があると思われる所以、学校やサロン活動、防災・防犯といった取組を通して地域の連携を図っていくなど、団体やある取組を通じてコミュニティ活動を進めいく必要があると感じます。
- ・自治会に入りたくないのに強制てきな風潮があるのが本当に嫌だ。
- ・地域コミュニティが存在しているのかわからない。勧誘や活動がないため煩わしさがなく快適ではあるが、地域課題を発見しても自身で解決するしかない。
- ・市内に転居してきた立場として、全く地域のコミュニティがわからないし、知る機会がどこにあるのかわからない。
- ・市内であっても生まれ育った地域と少し変わるだけで、自治会や子ども会の活動が見えなくなってしまった。
- ・地域コミュニティ活動が、まず何をやっているか知らない。

(40代)

【自治会加入】

- ・いつも清掃活動、花壇の管理等ありがとうございます。整えられている花壇に癒されます。
- ・他団体との情報共有がもっと活発になればいいと思う。グループ LINE のように、気軽に情報交換できる場があると嬉しい。SNS ではなく、市が主導のものを運用することで、グループの特色に関わりなく幅広いジャンルの団体と交流できると思う。
- ・災害等が起きない限り、地域の一体感は得られないのかもしれません。仮に起きたとしても、結局、時間の経過とともに元に戻るとは思いますが。
- ・なるべく参加していきたいと思います。若い世代から参加していると顔見知りも増えるので若い世代が関心を持てる行事をお願いします。
- ・都営住宅の自治会同士が集まる場がほしい。
- ・そもそもどのような活動をしているのか情報がほとんどない。もっとネットや SNS で情報発信してほしい。情報を集約してほしいし、昭島市公式 SNS でも地域のお祭りやイベント、伝統行事の情報発信してほしい。
- ・質問自体が自治会をどうにかしたいという思いが背景にある質問項目が多いと感じた。先入観にとらわれない地域コミュニティ活動の推進に期待しています。
- ・昭島市は教育水準に課題があると感じる。安心して子育てできるよう、教育支援団体の活性化を望みます。
- ・高齢化や、今後想定される災害などに対しては地域で支え合う事が不可欠であるため、日頃から地域コミュニティ活動を通して関係を密にしていくことが必要であると感じます。地

域の関係性が薄くなってしまっているため大変難しいですが、日常時は楽しく交流し、緊急時は共に支え合うことができると良いと思います。（具体的な提案は思い浮かばず申し訳ございません）

- ・自治会においては役員と会員、団体においても役員と団体員など、運営する側と所属している側の温度差が大きいと感じる。やはり、活動内容や地域課題についての情報が、市民に浸透していないことが、不活性化の一因と考えます。

【自治会未加入】

- ・コミュニティ毎の特色がなく力を感じないので、特色があるものになって、入れるコミュニティを選べるようにしてみてはどうか。
- ・活動団体は探さないと辿りつかないので、もっとオープンになって欲しい。
- ・総じて高齢者の占める割合が多く、時代の流れからか若者や子育て世代の交流が希薄化してきている。若年層の掘り起こしとして、SNS などによる情報発信ができる掲示板のような受け皿を行政につくってほしいですね。投稿者（特に若者）がアップできる機会が増えるし、交流が希薄化した中でも SNS を通じた新しい交流（つながり）につながるのでは。
- ・緑と水が豊かなことを生かして地域作り出来るといいと思います。地域全体で緑化活動とか、美味しい水で淹れるカフェ、食べ物で、地域おこし活動とか。
- ・コロナ以前、自治会・子供会に加入しておりました。上の子が小学生になり、地域の方々と繋がりを持ちたいと考えたのも加入の理由の一つでした。子供会の役員になると自治会の毎月の定例会の他、ウィズユースの方との顔合わせ・打ち合わせが年に何度かあり、それが 19~21 時とかでした。当時下の子は幼稚園に入る前。“子供会”ですからもちろん他の方も小学生のお子さんや小さい兄弟がいる世帯です。なのに夜の集まり…。子育て世代の為の活動かと思いきや全く違う現実に驚きました。子どもだけで留守番をさせたり、私の親を呼んでみてもらったり、でも私が留守なので寝ないで待っていたり…と子どもにも負担をかけたなと思っています。子育てを経験された先輩方が自治会やウィズユースにはいらっしゃるのに「なんで？何の為に？！」という思いでした。【自治会に加入を】と謳っていても、それでは入りたくないだろうなと思ってしまいました。子供会にさく予算も少ないですし、自治会の協力も正直あまり感じられませんでした。魅力をあまり感じることができず退会しました。
- ・自治会加入率の低下は大きな問題。その理由として、自治会の構成メンバーが高齢化しており、高齢者世帯を意識した活動になっているのではないか。若い世代に有意義、魅力的な活動を行っていれば、自然と加入率は上がるはず。様々な活動があってしかりだが、様々な世代のニーズ等を把握した活動をしてほしい。
- ・自治会活動費を全て市が負担し、役員等の報酬も出す。そして加入、非加入関わらず参加しやすい環境の整備が必要。
- ・子どもを絡めた活動を増やせば若い世代を取り込めるのではないか。

- ・マイナスの部分とプラスとなる部分が、トータルでプラスにならないと参加はしない。今はマイナスが多いから低下している。根本を変えないと難しい。
- ・このままでは、自治会の会員数は高齢化により減少する一方です。そのため、自治会への積極的な加入と参加を求められますが、若年世代にとっては、活動への参加が義務のように感じてしまい、参加への意欲がなくなってしまいます。地域活動には都合に応じて参加できるよう、肩の力を抜いた感覚で活動できる団体等が望ましいと思います。
- ・昭島市は住みよい街に向け、いろいろな策で取り組まれていて、住民として有難く嬉しく、街が住みやすくなっていくことはとても良いことです。いつもお仕事、ありがとうございます。
- ・昭島市に限った事ではないが、現在の地域コミュニティを見ると高齢者の集まりとなってしまっている。高齢者が中心となっているため、高齢者目線での集まり等となってしまっており、共働きが当たり前の若い世帯を遠ざけてしまっている。
- ・これから地域を活性化していくためには、若い世帯が中心に活動をする地域コミュニティがあるまち作りが必要である。
- ・どこも苦戦している中で、若者中心の地域コミュニティの成功事例が昭島から誕生すれば、大きなまちのPRポイントとなる。
- ・究極論ではあるが、高齢者が中心となっている現在の活動をいったん廃止して、若い世帯が中心となった新たな仕組みとして再スタートするなどの大胆な改革も視野に入れる必要があるかもしれない。
- ・色々な自治体が色々な新しい取組を試しています。他がやっていない事を失敗を恐れずに実践していく、大変だし不安かもしれないが、楽しく住みやすい未来を見据えて大きく変化させていってほしい。
- ・地域コミュニティは防犯防災に有効ですが、数十年前から続く自治会組織を中心とすることは限界だと思われます。新しい地域コミュニティのあり方が必要だと思われますが、一部の高齢者が利権を独占するようでは自治会の二の舞で機能しなくなると思います。
- ・ボランティア活動やビジネス活動ではないソーシャル事業を、行政に頼らず自活して主体的に活動できる団体を育てることや、それらの団体活動を全面的にサポートできる行政、そして自由な活動場所が必要になってくるのではないかと思います。
- ・最近、海外出身の市民がふえたように感じています。その様な方達も参加しやすいような交流の場や、活動があるといいと思っております。

(50代)

【自治会加入】

- ・歴史と伝統を大切に新しい未来を拓くために、年配者の経験と知恵、新世代の行動力が合致する地域の構築が急務。コロナで分断された地域の絆を再び結び合うために、この2~3年はイベントを通した連帯と対話の場を大事にしたい。そのために行政の応援を一段とお願ひしたいと思います。
- ・時間に囚われずに活動できる環境。在職者でも出席できなくても情報を共有できるシステムの構築。
- ・自治会への加入率を上げることは難しいと思いますし、自治会に参加されている方に負担をかけるのは良くないと思います。
- ・時間がなく、なかなか地域コミュニティ活動には参加できないが、日ごろ地域活動に取り組んでいる方には感謝しています。
- ・近年、次の班長のお願いに行くと、自治会を退会する傾向のようです。タイミングをみていたかのように。20年前は、自分も若く、自治会の参加や子ども会など積極的に参加していましたが、現在は趣味の活動が主になっています。地域の活動や行事は、参加すると楽しいのですが、役回りなど加味すると費用対効果が低い感じがします。では自分の趣味を地域に広める…なんてエネルギーは、もはやなく、現状維持が目標となっています。災害時など有事の際においては、自治会に加入未加入にかかわらず、避難所に行けば助けてもらえるという認識のある方が多いように思われ、地域活動（自治会など）のメリット、価値などは自分で見出していかなければ、と思います。青学駅伝部監督の言葉の引用ですが、何か「わくわく大作戦」を市民に打ち出せるといいですよね。その大作戦とは？私自身も仕事上でアイデアが浮かばず、悩んでいます。
- ・団体に対して、資金だけではなく、学校の貸し出し等をしてもらわないと活動できない。
- ・高齢者や単身世帯は自治会に加入していても役員をしたり、集金等を行うのは難しい。
- ・ゴミ拾いや草刈りなど、人や地域の役に立つと思える活動には参加してきましたが、祭りや運動会などの運営・参加は負担に感じました。好きな方は楽しみにしているのだとは理解しています。
- ・自治会に加入している中で、回覧板を次の方に持っていくのですが、いつも遅れてしまいます。時には、あまり関係のない情報などだけのときは、ついあとでもって行こうとなります。もう少し回覧板の資料を減らせてもらえないかな、と思います。
- ・地域柄、昔からの繋がりが強く伝統文化を守るために重要。半面、新参（親戚等なし）は入りにくい点もあった。転入前に心構えとして居住地域の文化を知る機会があればよかったです。
- ・地域活動は、今、大転換期にある。固定観念に囚われない、大胆な改革が必要だ。まずは、地域活動が必要なのか？何を残していきたいのか？から議論を始める必要があると考える。

- ・コロナ前はよかったけど人の交流がしにくくなった。
- ・回覧板を廃止してSNS等を用いた情報発信に切り替えてほしい。
- ・自治会活動やブロック補助金削減・縮小の停止。
- ・若い人達にとっての自治会加入メリットを明確化して欲しい。古い体質・慣習のまま、適切に運営されていない団体が無いかを今一度検証して、現在に見合った体制作りを進めていただきたい。
- ・価値観の多様化が進む中で、旧態依然の活動から、時代に合わせた地域コミュニティ活動への転換が必要であると感じています。
- ・役員を務めてくれる者が居なくなる今後、自治会は有名無実のものとなるであろう。自治会に加入しない者が災害の際に自治会員と同等に優遇される待遇を差別化して欲しい。でなければ自治会に加入している意味がないではないか。

【自治会未加入】

- ・行政が働きかけてしまうと義務が生じ煩わしさが際立つので、例えば駅や商店街、バス会社などが軸になるとハードルが下がる気がする。
- ・高齢男性が役員の中心を占めている自治会へは、子育て世代は加入し辛いと感じる。ただ、若い世代は子供の学齢期は、横のつながりが比較的出来やすいが、単身者や高齢者、障害のある方は子供を通じてのつながり等持ち辛いため、工夫が必要である。現在石川県地震の発災で、平常時より防災に関心が高まっているため、このタイミングで防災活動を核とした地域コミュニティの立ち上げが有効なのではないだろうか。行政はこのタイミングできっかけづくりを行うと地域コミュニティ活動が少しは前進するのではないか。
- ・意味なく仕切る一部の人たちの持ち物となっている現状では、ますます自治会への加入は難しい。また仕事や他の用事で自治会の仕事に出られない事が多々あるので理解されないようでは、周りの人も誘えない。
- ・デジタル化。
- ・地域の活動、成果がだれでも簡単に目に入るような工夫を望みます。外国人の人も増えていると思うので、交流の場をつくって、昭島市を知ってもらえるような活動もいいのではと思います。
- ・自治会は、参加方法やあり方について課題が多くあることや、何のために加入するのかがわからないために加入率が低くなっているのだと思います。しかし、自治会は地域コミュニティでの核となる団体であることは間違いないと思うので、その使い方がもったいないな、と思います。
- ・昭島に住んで約20年経ちました。マンション住まいのせいか自治会への勧誘があったのかもわかりません。年を重ねて人との繋がりが、とても大事だと再確認している所です。とはいえ、グループの輪が出来ている所に入っていくのは躊躇します。地域の為に何がお役に立てるような事がしたいと考えてはいますがなかなか実行に移せずにいるのが現状でいま

す。

- ・参加してみたいと思うが、不安や怖さがまだある。
- ・以前は入っていたのですが、忙しい時間を取りられて大変でした。時間や気持ちに余裕が出てきたら参加し直そうと思いやめました。

(60代)

【自治会加入】

- ・自治会加入促進のための活動。
- ・デジタル化の推進。
- ・災害時に自治会に入っている事で有利不利はあるのか。日頃から地域住民との関係は大切だと思うが、自治会をやめる人は“メリットがない”と言っている。
- ・特に災害発生時の要支援者安否確認においては、他自治体の実施例で昭島市にも適用できる事例が無いか調査し、参考になる事例があれば積極的に紹介してほしい。自治会への丸投げでは協力が得られないのではないか。
- ・新しく引っ越しされてきた方がなかなか自治会に入ってくれない。地域の環境を整えるためにも、安心して暮らせる地域にするためにも、お金がかかる。子どもたちが安全に遊んだりできるのも、地域がきれいになっているのも自治会が活動していることを理解して、会費だけでも払って協力して欲しいと思う。なかなかそれを分かってもらえない。自分たちには関係ない。勝手にやっているんでしょう。的な考え方は、ちょっと違うのではないかと思う。みんなで守っていくことの大切さが分かってもらえたなら良いなあと思う。
- ・ITリソース（PC等）が個人頼り（共用なものがあれば、効率的）。手軽に使える 地図データがあると、資料が準備し易い。
- ・災害対策を核にした地域住民同士の繋がりを広げるため、自治会に加入、未加入を問わずエリア全戸の住民に向け意識改革を図る。
- ・会社勤めをしていると、そのつながりや家族との生活でいっぱいになっている状況です。
- ・地域との交流の必要性は感じていて、近い将来に仕事から離れたら何かに参加しようかと考えています。
- ・自治会の活動単位の市からの補助金と、資源回収の補助金のアップです。また地域に在住の市職員やOBたちにも役員として参加してほしいなあ。
- ・個人主義が、協調されているところなので、個々人の能力を発揮できるような場所やその成果の発表の場があると良いのかと思っています。
- ・このアンケートは、自治会長が回答する内容ではなく、市民全体の方が回答する内容だと思います。自治会加入率が低下している中で、なぜ未加入者が多いのか？このアンケートで見えてくるのではないでしょうか。
- ・今の家庭は夫婦共に忙しいので、そのような環境でも参加出来る（参加しやすい）各団体の在り方（整理統合含む）を検討する時期に来ていると思います。

- ・昭島市として地域住民の意見を重視して頂きたい。
- ・若い世帯がなぜ自治会に加入しないのかを机上で述べているのではなく調査研究してほしい。自治会の見える化とスマホを使った自治会活動のあり方を考えてほしい。
- ・個人情報の問題があるので、プライバシーを守りながら、災害や緊急時の連絡方法や声かけをスムーズに行う方法の確立。地域ボランティアを増やすが、その人に責任を押し付け過ぎないことが大事だと思う。他人に迷惑かけても良い社会の仕組みを作ることが大事で、地域ぐるみで弱者を守っていくこと、また、地域の子ども達に顔を覚えてもらい、挨拶をしたり、会話ができる環境づくりが大事だと思う。
- ・自治会に入っていても入っていなくてもなにも変わらない事が自治会離れになると思います。何のために会費を払っているのか解らない。回覧板だけの繋がりだけなら必要がないと、思う。
- ・地域コミュニティに対する無関心層が拡大しており、新しい町、地域への移住者等への勧誘・声掛けをすべき。
- ・役員の方々に敬意を表します。
- ・地域活動への興味・関心は高齢者が一番高いのではないかと思う。独りで、弱い立場で不安や心配が多いことだと思うが、若い担い手を作っていくなければ、コミュニティも形骸化してしまうのだろう。先ずは本来的あり方とは思わないが行政主導で上から担い手作りをしていかないといけないと思う。
- ・市役所からの支援が必要。
- ・自己の都合を理由に、地域活動に参加しない住民が、特に子育て層以下に多く、参加者は殆ど高齢層である。そのため、中心となる壮年層の参加者は少なく、参加負担も大きい。災害や問題があった時、自治会に助けを求める（権利主張）のではなく、日頃から地域のつながりをもつこと（協力義務）が大切であることが十分に浸透されていない。他人に権利を主張するには、義務を負うことの浸透が不足していると感じている。市は子育てに無条件で公的費用を投入するだけでなく、相応の義務を果たす条件を付加する工夫（仕掛けづくり）の必要があると考える。当然のように生活費用を充てられ育った人物が、一方的に権利を主張するといった、ねじれた社会になっているのではないかと強く感じことがある。乳児、児童、生徒、学生と医療費や教育費、給食費等、あらゆる費用負担を公金で賄い、生活するために相応の苦労をせず生活してきた人が、本当に地域を背負ってくれる様な人物になるのであろうか。苦労を重ねて、相手の気持ちが分かるようになってこそ、地域活動に使命感をもち、そこに生き甲斐を見いだすことのできる人物になるのではないか。このような人物作り、育成にこそ公金を使用する必要があると考える。
- ・住民の自主的な活動に任せきりではなく、行政がイニシアチブをとってほしい。
- ・自治会活動は、地域によっては、とても盛んで熱心に活動しているところもありますが、これから、自治会への加入者を増やすとか、そういうことはもう無理だと思いますし、自治会としての組織力を高めることも、難しいと思います。大きな災害などが起こった時の、避

難、誘導、介護、看護や、安全の確保のためにも、自治会の範囲の地域に住んでいる人の、全員の名簿を作り（自治会員も自治会員でない人も）、市役所が、その自治会の地域に住んでいる人の全数を把握して、いざという時の、災害対策のために役立てる必要があると思います。

- ・自分が書いている事と矛盾していますが、東日本の災害などを見ると地域の交流は必要ですね。
- ・強制ではなく、自然なやさしさのある生活をできるよう、住人が心がける事。

【自治会未加入】

- ・自治会、PTA、時代の変化とともに見直す時期にきています。
- ・気負わないで参加できること。私の団地は高齢者ばかり、皆で体操をして、健康寿命を延ばしたい。

(70代以上)

【自治会加入】

- ・地域コミュニティ活動の力ナメが自治会。自治会活動活性化の為の行政（市）の本格的指導性と具体的強化方針を示してほしい。
- ・大災害時の事。想定する時に加入率（自治会）が30%台では、コアの役割として自治会があっても、未加入世帯が多数の状況。自主防災活動の取り組みも無意味な状況。各地域の自治会が自主防災組織を支えているのが実情です。財政、体制的にも、具体的方針が必要である。（自主防災組織強化のために！）
- ・大災害想定するなら、市マスタープランで市内“5地域”を別けて対応されているが、その5地域の各地域に人と体制づくり、予算化裏付けて、自主防災組織を消防関係とも連携しながら体制を作らないと、自治会や今の自主防災組織の実態からみれば問題点が多すぎると、「いざ！」という時に間に合わない。
- ・自治会の役割がよくわかりません。
- ・美堀町には老人のためのサロンがありません。老人が孤独にならずに、地域で楽しみ合える場所がほしい。
- ・活動のリーダーの育成をもっと多方面で積極的に行ってほしい。
- ・近隣市町を含め広域の自治会同志の交流があれば、他の成功例を学び取れる。
- ・人とゆるい関係が保てる活動。
- ・行政の目線はもう少し市民側に立って、一緒に考える姿勢。そしてその時そういう活動はこれまで例がないからダメという態度を取らないことです。物事はやってみなければわからないのです。失敗は当たり前。そういう姿勢で地域コミュニティ活動を展開するのがいいと思います。
- ・若い現役世代は忙しくて、なかなか地域活動に参加しにくいし、ベテランは老化して弱ってくるし、なかなか世代交代がスムーズできなくなってきた。

- ・楽しく、気軽に参加できるコミュニケーションの場（物理的にもイベントでも）の創出が必要と思うが、難しい。とにかく若い人が参加しやすい道を作ることが必要。
- ・地域コミュニティ活動が広がらない原因は何か、行政の考え方と市民の思いがずれているのか、運営する責任や負担のことを考えると活動の楽しみが薄れてくるような気がします。
- ・限られた財政のなかで住民力をうまく活用していくくしきみ作りで、安心安全な昭島市へ。
- ・コミュニティ、協議会がもっと多くできるとよい。
- ・高齢者にやさしい地域。その為のボランティアが様々な形で活動している。それを知って欲しい。
- ・一人では生きられない。皆、平等に協力できる世の中になる事。
- ・自治会会員は年々減っています。（当地域は）
- ・自治会を中心としてのまとめは困難な状況であると思いますが、やはりベースには自治会があるかと思います。（当方70代）
- ・行政におんぶに抱っことは言えない現状、地域力で共助の仕組みを作りたい。
- ・戸建ての自治会と集合住宅（特に公営住宅）とでは活動状況がぜんぜん異なることを知りたい。
- ・地域住民同士の連携を強めるため自治会への加入に向けての対策を強化して欲しい。
- ・自治会の中には、活動的な自治会とそうでない自治会が存在する。その温度差を解消する為に、市が中心となった会議の開催を要望する。
- ・地域の問題点等、情報の吸い上げ、解決するスピード力をつけること。

【自治会未加入】

- ・世話役などの人材の発掘と活動場所の確保。
- ・行政の介入。
- ・自治会に加入していない人に自治会の活動内容を教えて欲しい。（どのような活動をしているのかわからない）
- ・ボランティア活動に参加出来る事があれば参加したい。